

あーすフェスタかながわ2010実施報告書

じっしほうこくしょ

あーすフェスタかながわ2010実施報告書

みんなで育てる多文化共生

そだ

たぶんかきょうせい

じっこういんかい

■はじめに

神奈川県には、現在、160を越える国と地域の約17万5千人の外国籍の人々が暮らしており、互いに多様な価値観や文化を理解し尊重しながら、「共に生きる」ことのできる豊かな多文化共生社会を築いていくことが求められています。

私たちは、多文化共生社会の実現に向けて、さまざまな文化的背景を持つ多くの県民が集い、出会い、それぞれの文化や考え方をアピールするとともに、互いを理解するため、2000年から毎年、「あーすフェスタかながわ」を開催してきました。

民族団体、NGO、市民グループ等で実行委員会を組織し、多様な国籍、文化を持つ実行委員、企画委員が1年に渡って話し合いを重ね、企画、準備をすすめて開催することができました。また、直前の準備も含め、当日には約100名ものボランティアの方々も、運営に携わりました。

プログラムは、「みんなで育てる多文化共生」をテーマに、民族芸能ステージ、外国籍県民フォーラム、屋台村、ワークショップなど、それぞれ工夫を凝らしたものとなりました。さらに、「子どもたちに夢と希望を」をコンセプトにとりわけ、子どもをテーマや対象とした企画が大変好評でした。

2日間で約22,000人もの方々においでいただき、無事成功裏に終えることができました。開催に御協力いただいた皆様にはこころからお礼申し上げます。これからも、多文化共生社会の実現のために、皆さまと共に歩んでいきたいと思っております。

あーすフェスタかながわ 2010 実行委員会

委員長
副委員長

水田秀子（神奈川県 県民局長）
李富鉄（在日本大韓民国民団神奈川県地方本部 団長）
呉載世（在日本朝鮮人総聯合会神奈川県本部 委員長）
任政光（横浜華僑総会 会長）

監事

杉山喜男（財団法人かながわ国際交流財団 専務理事）
櫻井弘子（特定非営利活動法人かながわ難民定住援助協会 会長）
丸谷士都子（特定非営利活動法人地球の木 理事長）

委員
委員
委員
委員

伊日赫（あーすネットかながわ 代表）
井上進（財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部 本部長）
大倉一郎（外国人学校ネットワークかながわ 代表）

委員

トルオン ティトウイ チャン（かながわベトナム親善協会）

委員

長瀬永輝（クメールボランティア協会 会長）

委員

吉浦伸二（独立行政法人国際協力機構横浜国際センター 所長）

委員

田中房一（小菅ヶ谷連合町内会自治会 会長）

委員

スーリヤヴォン シントン（在日本ラオス協会）

委員

北山土童（栄区文化協会 会長）

委員

中村ノーマン（多文化活動連絡協議会 代表）

委員

大久保芳一（横浜市栄区民文化センター（リス） 館長）

委員

宮崎孝雄（横浜市栄区役所総務部 地域振興課長）

委員

川口真友美（神奈川県県民局くらし文化部 国際課長）

事務局長

杉山喜男（神奈川県立地球市民かながわプラザ（あーすぷらざ） 館長）
八百健雄（神奈川県県民局くらし文化部国際課 副課長）

以上 21 名（2010 年 9 月 12 日現在）

1.	<small>じっしがいよう</small> 実施概要	1
2.	<small>じっしないう</small> 実施内容	3
3.	<small>がいこくせきけんみん</small> 外国籍県民フォーラムの <small>きろく</small> 記録	14
4.	<small>らいじょうしゃ</small> 来場者アンケート <small>けっか</small> 結果	35
5.	<small>きかくいいんかいめいぼ</small> 企画委員会名簿	41
6.	<small>かいさいけいか</small> 開催経過	43
7.	<small>しゅうしほうこく</small> 収支報告	50
8.	<small>こうほう きろく</small> 広報の記録	51
9.	<small>とうじつはいふ</small> 当日配布チラシ	52

1. 実施概要

● テーマ

みんなで育てる多文化共生

● 趣旨

神奈川県には、現在、160を越える国と地域の約17万5千人の外国籍の人々が暮らし、互いに多様な価値観や文化を理解し尊重しながら、「共に生きる」ことのできる豊かな多文化共生社会を築いていくことが求められています。

あーすフェスタかながわ2010は、多文化共生社会の実現に向けて、様々な文化的背景を持つ多くの県民が集い、出会い、それぞれの文化や考え方をアピールすると共に、互いを理解する機会を作るため、県内の民族団体、NGO、市民ボランティアなどが企画段階から共に力を合わせ開催したものです。各プログラムにおいて、多くの外国籍の方々、とりわけ子どもたちが参加できるような場を設けることを目指しました。

● 日時

2010（平成22）年9月11日（土）、12日（日）

● 会場

あーすぷらざ（神奈川県立地球市民かながわプラザ）
リリス（横浜市栄区民文化センター）

● 入場者数

約22,000人

● 主催

あーすフェスタかながわ2010実行委員会

（構成団体）

あーすネットかながわ
財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部
外国人学校ネットワークかながわ
特定非営利活動法人かながわ難民定住援助協会
かながわベトナム親善協会
クメールボランティア協会
独立行政法人国際協力機構横浜国際センター
小管ヶ谷連合町内会自治会
在日本大韓民国民団神奈川県地方本部
在日本朝鮮人総聯合会神奈川県本部
在日本ラオス協会
栄区文化協会
多文化活動連絡協議会
特定非営利活動法人地球の木
横浜華僑総会
横浜市栄区民文化センター（リリス）
横浜市栄区役所
神奈川県
神奈川県立地球市民かながわプラザ（あーすぷらざ）
財団法人かながわ国際交流財団

（以上20団体）

こうえん
● 後援

がいむしょう
外務省
ちゅうじんみんきょうわこくちゅうにほんこくたいしかん
中華人民共和国駐日本国大使館
ちゅうよこほだいかんみんこさうりょうじか
駐横浜大韓民国総領事館
かながわけんにはんちゅうこくちゅうこうきょうかい
神奈川県日本中国友好協会
かながわけんにつかかんしんせんきょうかいれんごうかい
神奈川県日韓親善協会連合会
しゃかいふくしほうじんかながわけんしゃかいふくしきょうぎかい
社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会
かわさき
川崎市
さがみほらし
相模原市
かまくらし
鎌倉市
やまとし
大和市
よこほましきょういくいいんかい
横浜市教育委員会
かわさしきょういくいいんかい
川崎市教育委員会
やまとしきょういくいいんかい
大和市教育委員会
ざいだんほうじんよこほましこくさいこうりゅうきょうかい
財団法人横浜市国際交流協会
ざいだんほうじんかわさしこくさいこうりゅうきょうかい
財団法人川崎市国際交流協会
さがみほらしこくさいかすいいいんかい
相模原市国際化推進委員会
ざいだんほうじんやまとしこくさいかきょうかい
財団法人大和市国際化協会
とくていひえいりかつどうほうじんよこすかこくさいこうりゅうきょうかい
特定非営利活動法人横須賀国際交流協会
ひらつかしこくさいこうりゅうきょうかい
平塚市国際交流協会
ふじさわしとしんせんいんかい
藤沢市都市親善委員会
おたわらかいがいしんこくさいこうりゅうかい
小田原海外市民交流会
ちがさきしこくさいこうりゅうきょうかい
茅ヶ崎市国際交流協会
みつろしこくさいこうりゅうきょうかい
三浦市国際交流協会

きょうさん
● 協賛

あさひ いんさつかぶしがいいしゃ
朝日オフセット印刷株式会社
かながわけんせいかつきょうどうくみあいれんごうかい
神奈川県生活協同組合連合会
かながわけんちゅうしやうきぎょうかんたいちゆうごうかい
神奈川県中小企業団体中央会
かながわけんにはんちゅうこくちゅうこうきょうかい
神奈川県日本中国友好協会
かながわけんにつかかんしんせんきょうかいれんごうかい
神奈川県日韓親善協会連合会
かながわせいわかぶしがいいしゃ
神奈川県清和株式会社
かながわだいがく
神奈川大学
かぶしがいいいしかわしょうじ
株式会社石川商事
かぶしがいいしやきょうわふつさん
株式会社協和物産
かぶしがいいしやさんぎょうほうえき
株式会社産業貿易センター
かぶしがいいしやさんごう
株式会社三光ビルサービス社
かぶしがいいしやだいちんろう
株式会社大珍楼
かぶしがいいしやちゅうこくほうえきこうし
株式会社中国貿易公司
かぶしがいいしや
株式会社チャイナカーペット
かぶしがいいしやにしゅういちこくさいりょうごうしや
株式会社二十一国際旅行社
かぶしがいいしや
株式会社ファーストビデオ
かぶしがいいしや いんさつ
株式会社ポートサイド印刷
かぶしがいいしや
株式会社メルヘン
かぶしがいいしややくもどろ
株式会社八雲堂
かぶしがいいしやよこほまこくさいへいわかいぎじょう
株式会社横浜国際平和会議場
きんりゅうほんてん
金龍飯店
ざいだんほうじんちゅうわかいかん
財団法人中華会館
ざいにっぽんだいかんみんみんだんかながわけんちゅうほんぶ
在日本大韓国民団神奈川県地方本部
ざいにっぽんちゅうせんしんちゅうれんごうかいかながわけんほんぶ
在日本朝鮮人総聯合会神奈川県本部
しゃだんほうじんかながわけんいしがい
社団法人神奈川県医師会
しゃだんほうじんかながわけんかんとこぎょうかい
社団法人神奈川県看護協会
しゃだんほうじんかながわけんけんせつきょうかい
社団法人神奈川県建設業協会
しゃだんほうじんかながわけんしやうきぎょうかい
社団法人神奈川県歯科医師会
しゃだんほうじんかながわけんしやうきぎょうかい
社団法人神奈川県病院協会

はだのしこくさいこうりゅうきょうかい
秦野市国際交流協会
あつぎしゅうこうこうりゅういいんかい
厚木市友好交流委員会
いせはらしこくさいこうりゅういいんかい
伊勢原市国際交流委員会
ざましこくさいこうりゅうきょうかい
座間市国際交流協会
みなみあしがらししまいとしこうりゅうきょうかい
南足柄市姉妹都市交流協会
はやまちこくさいこうりゅうきょうかい
葉山町国際交流協会
こくさいこうりゅうきょうかい
さむかわ国際交流協会
おおいそまちしまいとしきょうかい
大磯町姉妹都市協会
はこねまちこくさいこうりゅうきょうかい
箱根町国際交流協会
こくさいこうりゅうきょうかい
ゆがわら国際交流協会
かながわけんきょういくいいんかい
神奈川県教育委員会
かながわしんぶんしや
神奈川新聞社
よこほまほうそうきよく
NHK 横浜放送局
かながわ
tvk(テレビ神奈川)
FM ヨコハマ
かながわけんしやうこうかいぎしよれんごうかい
神奈川県商工会議所連合会
かながわけんしやうこうかいれんごうかい
神奈川県商工会連合会
にほんろうどうくみあいそうれんごうかいかながわけんれんごうかい
日本労働組合総連合会神奈川県連合会
かながわふくしきぎょうきょうかい
神奈川県福祉事業協会
よこほましやうこうかいぎしよ
横浜商工会議所
ざいだんほうじんちちたいこくさいかきょうかい
財団法人自治体国際化協会
どくりつぎょうせいほうじんこくさいこうりゅうきぎん
独立行政法人国際交流基金
ざいだんほうしん こくさいこうりゅう
財団法人ラポ国際交流センター (以上 46 団体・順不同)

しゃだんほうじんかながわけんやくざいしがい
社団法人神奈川県薬剤師会
しゃかいふくしほうじんかながわけんしゃかいふくしきょうぎかい
社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会
しやくてん
謝辞記
しんよくみあいよこほまかぶざん
信用組合横浜華銀
せいかつ せいかつきょうどうくみあい
生活クラブ生活協同組合
せいかつきょうどうくみあい
生活協同組合コープかながわ
せいかつきょうどうくみあい かながわ
生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープ
たいへい かぶしがいいしやよつかえいぎょうしよ
ダイドービバレッジサービス株式会社戸塚営業所
かぶしがいいしやよこほましてん
太平ビルサービス株式会社横浜支店
ちゅうかがいいしやじょう
中華街停車場
どういんがくえん
桐蔭学園
とうかろう
東華楼
どくりつぎょうせいほうじんこくさいこうりゅうきぎん
独立行政法人国際交流基金
なかがわいんさつかぶしがいいしや
中川印刷株式会社
にほんせきしゅうじしやかながわけんしふ
日本赤十字社神奈川県支部
にほんろうどうくみあいそうれんごうかいかながわけんれんごうかい
日本労働組合総連合会神奈川県連合会
ネパリー・バザー口
かぶしがいいしや
ノムラテクノ株式会社
ふじきぎやうかぶしがいいしや
藤木企業株式会社
ふんぎやうだいがく
文教大学
みつびしじゅうごう かぶしがいいしや
三菱重工メカトロシステムズ株式会社
ゆづげんがいしや
有限会社アイニー
ゆづげんがいしや しやうかい
有限会社えのき商会
ゆづげんがいしやいちらく
有限会社一楽
よこほまかれんりごうしや
横浜華聯旅行社
よこほましやうこうかいぎしよ
横浜商工会議所
Labo Party
りゅうこうほんてん
龍江飯店
わかきけんちやうけいとうきそくりやうじむしよ いじやう きぎやう だんたい おんじゆん
若木建築設計登記測量事務所 (以上 58 企業・団体 (50 音順))

2. 実施内容

あーすフェスタかながわ 2010 の 2 日間にわたる模様を、プログラムごとに紹介します。

1 ステージ・フォーラム

円形のひろば（アトリウム）と左右にある 2 つのホールでは、今回のフェスタのメッセージを伝えるオープニング・イベント、民族音楽や民族舞踊の華麗なステージ、外国につながるを持つ子ども達の教育問題を考えるフォーラムなど、盛りだくさんのプログラムが繰り広げられました。ステージの出演者は、中国、韓国・朝鮮、西アフリカ、南米などにわたり、歌や踊りなどを通して、それぞれの地域の特色や文化の多様性がアピールされました。最後のフィナーレでは、出演者たちが競演し、美しいメロディーの歌、躍動感あふれる演奏や踊りを披露しました。

(1) 開会式 (11 日 (土)) 10:30 ~ 11:10 アトリウム 参加者: 200 人

県立柏陽高校の吹奏楽部による演奏を交えながら、実行委員長の開会宣言、来賓の紹介などを行いました。



(2) 外国籍県民フォーラム

「外国につながるを持つ子ども達の教育問題を考える～母語を大切にしたい日本語・教科学習支援を通じて」

(11 日 (土)) 13:30 ~ 15:40 プラザホール 参加者: 117 人

日本語指導などに関わる子どもたちと向き合う気持ちの大切さ、外国人教育相談を活用する重要性について、参加者の皆さんとともに考えました。

※ 詳細は、あーすフェスタかながわ外国籍県民フォーラムの記録をご覧ください。



(3) 学校ステージ「がっこうで あい の エスコーラ」

(11日(土) 14:00 ~ 15:10 リリスホール 参加者: 324人)

外国人学校の生徒の芸能ステージと民族衣装のファッションショーが行われました。

【出演団体: 神奈川県立朝陽高等学校、横浜国際高校、横浜山手中華学校】



(4) 民族音楽「びび わた 響き 渡れ ラ グ ラ グ」

(12日(日) 12:20 ~ 14:00 リリスホール 参加者: 450人)

民族音楽を中心とした、美しい響きを楽しむステージが行われました。

【出演: サウン・ジョシ&アブドゥール・ラーマン (タブラ&シタール)、
ソンリーサ (アルパ)、アリソン・オパオン (フィリピンメッセージソング)】

(5) 民族舞踏「じょうねつ の サ ン ス ク リ テ ィ」

(12日(日) 14:20 ~ 16:20 プラザホール 参加者: 530人)

民族舞踊を中心とした迫力あふれるステージが行われました。

【出演: クルベ・ダ・パイシャオン (ブラジルダンス)、
横浜タイダンスクラブ (タイダンス)、バスンダリ (バリ舞踊)、
ンジャセ・ニャン (ジャンベ)、横浜中華学校校友会国術団 (獅子舞)、
NPO 民団国際協力センター (サムルノリ)、エソダ・バスネット (ネパール舞踊)】



(6) フィナーレ

(12日(日) 16:30 ~ 17:00 プラザホール)

様々な民族音楽が一緒になって奏でる音楽に乗せて、企画委員長の挨拶、2日間にわたりフェスタを盛り上げた出演者やスタッフ、来場者の皆さんでフェスタを締めくくりました。



2 ワークショッププログラム

国籍・文化の違いを超えて、共に「遊ぶ」「飲む」「聞く」「踊る」ことを通じ、「多文化共生」の楽しさを感じることができる子どもから大人まで気軽に体験できる参加型ワークショップを実施しました。

(1) あそび場

(11日(土)、12日(日) 11:00 ~ 16:00 ワークショップルーム)

協力：共学舎、横浜清陵総合高校、鶴見総合高校、横浜市大トレポル、たぶんかフリースクールよこはま
参加者：2,024人)

世界のさまざまな遊びの体験ワークショップです。中国、韓国、フィリピン、タイ、ネパール、ブラジル、ペルー、そして日本の遊びを紹介しました。

(2) しゃべりば

(11日(土)、12日(日) 12:30 ~ 13:30・14:00 ~ 15:00 多目的室、)

ファシリテーター：F M戸塚 多文化共生サポートラジオ：ラッパーズ VOICE

F M戸塚 ポエム de VOICE、李敬史、岡村兵衛、参加者：148人)

今年のテーマは「家族」。外国人の家族だけではなく、日本人の家族についても、会場の人たちと一緒に語り合いました。

(3) チャランゴの名手によるラテンアメリカ音楽体験

(11日 11:00 ~ 12:20、創作スタジオ、講師：ルイス・サルトル、参加者：80人)

南米の楽器チャランゴ演奏にあわせラテンアメリカのリズムや歌を体験しました。



(4) ラティーノダンスをディスコで

(11日 13:00 ~ 14:30、12日 14:00 ~ 15:00、創作スタジオ、講師：11日DJ：ルイス（コロンビア出身）

ダンス指導：アレックス、12日DJ：ルイス（ペルー出身）、参加者：90人

ラテンの踊り、ラティーノダンスをディスコのリズムに合わせて踊りました。

(5) 癒しのバリ舞踊

(11日 15:00 ~ 16:00、創作スタジオ、講師：バスタグ、参加者：70人)

インドネシア・バリ島の伝統舞踊体験。リラックス効果のあるガムランの調べに合わせて、指先や肩甲骨を細かく動かし踊りました。

(6) メキシカンダンスを踊ろう

(12日 13:00 ~ 14:00、創作スタジオ、講師：シルビア・ルバルカバ、参加者：50人)

ラテンのリズムに乗って、楽しく踊りました。

(7) 世界の本、言葉、文字のワークショップ

(11日 11:00 ~ 16:30、12日 11:00 ~ 16:00、中会議室、講師：水島真理子他、参加者：295人)

絵本の読み聞かせと色遊びをしました。



(8) 世界のお茶

(11日 13:00 ~、大会議室、講師：スリランカ・ナヤナーさん、アルゼンチン・丸岡商事、中国・植田 麗民さん、日本・栄区文化協会、参加者：221人)

世界のお茶を飲み比べ。スリランカ、アルゼンチン、中国、日本のお茶を紹介しました。

(9) 世界のものづくり

(12日、大会議室、講師：大島 昌江（アジアノット）、韓 盛徳（ポジャギ）、サナンコン・ピチェット（フルーツカービング）、参加者：120人)

アジアノットのストラップづくり、韓国のパッチワークであるポジャギのキーホルダーづくり、タイのフルーツカービングの体験をしました。

3 交流・展示プログラム

「リリスギャラリー」「リリス会議室」で、かながわに住む、外国にルーツを持つ子どもたちとの絵の展示、神奈川県姉妹都市の展示紹介、JICA 横浜特別企画などが実施されました。

(1) かながわと世界のともだち展～夢をつなぐ、ともだちの輪～

写真展「世界の子ども笑顔」

かながわのともだち都市～8つのともだちを紹介します～

(11日(土)、12日(日)) 10:30～16:00、リリスギャラリー、参加者：2,666人

かながわに住む、外国につながる子どもたちと地元の子もたちが「夢」をテーマに描いた作品を展示し、「世界のおはなしとうたのひろば」、「工作コーナー」で一緒に遊びました。また、子どもたちの笑顔の写真の展示や神奈川県8つの友好都市の展示紹介を行いました。

(2) JICA 横浜特別企画

(11日(土) 10:30～16:30、12日(日) 10:30～16:00、リリス会議室、参加者：1,817人)

私たちの日常生活が開発途上国と呼ばれる国々にどれだけ助けられているかを学ぶ、展示やペーパークラフトのワークショップを行いました。



4 シネマコレクション

(11日(土) 11:00～16:30、12日(日) 10:00～16:00、映像ホール、参加者：423人)

多方面で製作された多文化共生を啓発する映像作品を上映し、多文化共生を考える機会としました。

【上映作品】

- シネマコレクションパート0 『Re:C 作品 日系ブラジル人の私を生きる・レモン・「在日」でいることの意味、ヒョジョンへ』
『出会い～在日コリアン三世と日本の若者たち』
『名前…それは燃えるいのち (アニメーション)』
『ペンギンの国のクジャク (アニメーション)』
- シネマコレクションパート1 『まとう』
- シネマコレクションパート2 『となりに生きる外国人 多文化共生って何?』
『わいわいごちゃごちゃ 多文化・多民族共生の町』
- シネマコレクションパート3 『ブラインドサイト～小さな登山者たち～』

5 屋外プログラム (11日(土)、12日(日) 10:30～16:00、アプローチ・デッキなど)

屋外の階段から建物のメイン・エントランスまで続く、アプローチ・デッキで、世界各国の珍しい民芸品の販売や国際協力に取り組むNGOの活動紹介など「ワールド・バザール」のブースの出展、池の周辺などには、あーすフェスタ恒例の美味しい民族料理のお店がずらりと並ぶ「世界屋台村」、また、毎年恒例の「クイズラリー」「大道芸」「ふあふあ」も子ども達に大人気でした。池の中央のアイランドステージでは、世界の音楽や踊りやファッションショーであーすフェスタを盛り上げました。

(1) アイランドステージ^{なま}&生ラジオ

屋外の開放的^{おおくがい かいほうてき}なステージで、伝統民族芸能^{でんとうみんぞくげいのう}からダンス、HIP HOP など様々^{さまざま}なアーティスト^{さんか}に参加して
いただきました。また、今年^{ことし}はステージとコラボレーション^{なま ふう たの}して生ラジオ風^{なま}にDJが楽しいおしゃべりや
出演者^{しゅつえんしゃ}へのインタビュー^{おおくがい}をしながら屋外エリア^{おおくがい}を盛り上げ^{も あ}ました。



(2) 世界屋台村 (11日(土)、12日(日)) 11:00 ~ 16:00 池の周辺、階段前

23店の出店があり、世界各地のエスニック料理を多くの人を楽しみました。今年も、環境に配慮したリサイクル容器を利用しました。

○リサイクル協力

社会福祉法人同愛会、セルプ&リサイクルセンタ「リプラス」

店名	主なメニュー
メルヘン	○焼きそば ○アメリカンクレープ ○フライドチキン ○フライドポテト ○生ビール
かながわベトナム親善協会	○ベトナムうどん(フォー) ○ベトナム揚げ春巻き(チャジョー)
神奈川朝鮮中高級学校教育会 (父母の会)	○焼肉ナムル丼 ○スジスープ ○チヂミ ○白菜キムチ ○サキカムンチ ○焼き海苔 ○岩のりの和え物 ○飲み物(ジュース・お茶・ビール)
クメールボランティア協会	○カンボジアラーメン ○カンボジア風焼とうもろこし ○カンボジア風オムライス ○焼き肉
インドレストラン Joy&Monis	○SAMOSA (インドポテトパイ) ○骨なしタンドリーチキン ○インド野菜団子 ○ホットジンジャーレモンチャイ
NIOUN ~ ニュン	○マフェ (ピーナツ煮込かけご飯) ○ヤサ (マスタード煮込かけご飯) ○ピサップ (ハイビスカスジュース)
イーサン食堂	○ガイヤーン (タイの焼き鳥) ○パッタイ (タイの焼きそば) ○タイの牛肉ラーメン ○タピオカ入りフルーツドリンク
(特活) ASIAN PEOPLE'S FRIENDSHIP SOCIETY	○チキンココナツカレー & ナン ○野菜カレー & ナン ○タンドリーチキン ○シシケバブ ○ケバブロール ○スパイシー串焼き ○ラッシー ○チャイ
在日本大韓民国青年会神奈川県地方本部	○ビビンバ (トッピング) ○わかめスープ ○韓国ビール・焼酎・どぶろく
エスクエラ デ エスパニョル	○エンパナダ (ミートパイ) ○ソーセージ (チョリパバ)
ナイル	○ケバブサンド ○シシケバブ ○クスクス (トマトソースかけ) ○メガッダラ (ソースかけ)
(特活) 地球の木	○チヂミ

13	リトルヨーロッパ	○クレープ ○カナッペ ○飲み物（ビール・シードル・各種ソフトドリンク）
14	クントゥル・ラテンアメリカ・カルチャープラン	○アンデス風 BBQ（牛・鶏） ○チョリソ ○タコス
15	（特活）地球市民 ACT かながわ /TPAK	○タイ・ラーメン ○ミャンマー紅茶・コーヒー
16	ペルシャ料理 クーチェ	○カバブクヒデ（牛挽肉ナン包み） ○カバブバレ（ラム肉 BBQ） ○ジュジェカバブ（骨付きチキン BBQ） ○ビール
17	サン ケバブ	○ケバブ
18	青年海外協力隊神奈川県 OB 会	○かぼちゃもち（トンガ料理）
19	イラン・ペルシャ料理 ISGAHE PORKHORI	○バーガー類 ○ハーブソーセージ ○焼き鳥 ○串焼き ○飲み物（ビール・ジュース・お茶）
20	おおぶな 大船チャンプル	○沖縄そば ○スパムおにぎり
21	ジュンバ横浜 NPO 国際交流会	○ナシゴレン（チャーハン） ○ミーゴレン（焼きそば） ○サテ・アヤム（焼き鳥） ○フルーツティー
22	よこはま 横浜コンスタンツァ友好委員会	○ボトルワイン・グラスワイン・サングリア （ルーマニア直輸入）
23	インド・ネパール料理 NIRAVANA	○チキンカレー ○ピリ辛マトンカレー ○ターメリックライス ○スパイシーポテト ○タンドリーチキン ○ラッシー

(3) ワールドバザール (11日(土)、12日(日)) 10:30～16:00 アプローチ・デッキ

NGO や民族グループが、それぞれの活動をアピールしながら、世界の民芸品、工芸品、民族音楽 CD などを販売しました。

	店名	主なメニュー
1	アンデス・アルテ	○民芸品 (手彫りのひょうたん細工、ウールバック、素焼き・ハンドペイントのオカリナ、民族楽器、手編みの指人形、素焼き、ハンドメイドの陶製品) ○衣料品 (刺繍・アップリケ付き子供服、アルパカ小物等)
2	第3世界ショップ	○アジア、アフリカ、中南米の手作り民芸品 ○食品 (カレーペースト、クッキー等)
3	サガルマータ	○手作りフェルト製品 ○てすき紙 ○野菜染めスカーフ
4	LOS ANDES (エクアドル)	○衣料品 (セーター、Tシャツ、手袋等) ○装具品 (バック、帽子、アクセサリー) ○インテリア (タペストリー、木彫り細工) ○CD、小物雑貨
5	サンワイズ	○衣料品 (シルクスカーフ、シルクストール、綿ブラウス・スカート・パンツ・ベスト等) ○装具品 (バック、綿パッチワーク帽子)
6	インドシナクラブ	○チモールのイカット ○モン族の手工芸品 ○イサーンの手織綿製品 ○ラオスの手織絹
7	カンボジア母国語を保障する会	○民芸品 (シルクスカーフ、エコバック、ミサンガ等) ○カンボジアの民芸品 (シルク、織物、伝統文化物、小物等)
8	日本インドネシア NGO ネットワーク	○書籍 (機関誌、ブックレット) ○工芸品 (バリ島の木彫り、ジャワ更紗等)
9	日口文化交流センター	○アクセサリー、人形、テーブルクロス ○陶磁器 ○絵本、CD
10	(特活) 地球の木	○装具品 (カンボジア、ラオスのスカーフ) ○小物 (カンボジア、ラオス) ○フェアトレードのコーヒー・紅茶・カレー粉
11	(特活) ビラーンの医療と自立を支える会	○ティナラク織生地、織縫製品 (バッグ、カード入れ等) ○ビーズ製品 (ネックレス、プレスレッド等) ○真鍮細工 (鈴、ベル)

1 2	とっかつ (特活) JUNKO Association	こものるい ○小物類 (ぬいぐるみ、ポーチ等) しよざつつか はし しよつきとう ○食雑貨 (お箸、食器等) ○アクセサリー (ピアス、ネックレス、ブレスレッド等) ようふく ○洋服 (スカート、ワンピース等) くつ ○靴 (サンダル等)
1 3	Anan's キッチン	しよくひん こな ○食品 (カレー粉、スパイス、紅茶) ○料理キット せいひん ○カデイ製品
1 4	かながわベトナム親善協会 しんぜんきょうかい	てづく みんげいひん かみど ○手作り民芸品 (ビーズ髪留め、ブレスレット、小物入 れ、バッグ、箸等)
1 5	とっかつ くさ ねえんじょうんどう (特活) 草の根援助運動	しゆこうげいひん ○インドネシアの手工芸品 ○フィリピン・パヤタスのクロスステッチタオル ひがし ○東ティモールのフェアトレードコーヒー
1 6	よう 葉さんとモモのお家 うち	ちゆうごく ○中国ストラップ ○パンダシール てせい ○お手製マット ○中国茶葉 ○かばん
1 7	ヨコハマエスニック倶楽部 くらぶ	がっき てんじ なんべい ○楽器展示 (南米 (フォルクローレ) の楽器、ケーナ、 サンポーニャ、チャランゴ) きょうそくほん てんじ はんばい みんげいひん なんべいみんげいひん ○教則本、CD の展示、販売 ○民芸品 (南米民芸品)
1 8	ひかり こ 光の子どもたちの会 かい	しゆこうげいひん ○手工芸品 (ラピrint (刺繍の布製品)) かつどうしゃしん てんじ ○活動写真の展示 ○パンフレットの配布 はいふ
1 9	あめざいくこうぼう あめ細工工房	ざいく ○あめ細工 ○アクリルすくい
2 0	Daniel Ho Creations Japan	がっき ○楽器 (ウクレレ)、CD ○インテリア (ハワイアンアート) こものざつつか ○小物雑貨 (リボンレイストラップ等)
2 1	ARTESANIA.O.R.	そうぐひん ○装具品 (アクセサリー、財布、バッグ、帽子、マフラー) がっき ○楽器 (オカリナ、ケーナ) ○民芸品
2 2	とっかつ (特活) ちきゅうしみん 地球市民 ACT かながわ /TPAK	しゆこうげいひん ○手工芸品 ○フェアトレード商品 しやうひん
2 3	とっかつ (特活) ふれんどしっぷ ASIA	とう ひとびと つく でんとうこうげいひん ○フィリピン、ネグロス島の人々が作った伝統工芸品 ほくぶ さんがくみんぞく ひとびと つく めのせいひん ○タイ北部の山岳民族の人々が作った布製品 かつどう しやうかい ○フレンドシップ ASIA の活動を紹介した資料 しりょう
2 4	ざい にほん (財) 日本ユニセフ協会 かながわけんしふ 神奈川県支部	とう ○ユニセフグッズ (カード、ハガキ等) こうほうよう ○ユニセフ広報用チラシ、パンフレット等 とう
2 5	かながわけんにほんちゆうごくゆうこうきょうかい 神奈川県日本中国友好協会	ちゆうごくぶつさんひん みんげいひん はんばい ○中国物産品、民芸品の販売

26	アジアの女性と子どもネットワーク	かつどうしょうかい しゃしん ○活動紹介パネル・写真 さんかくみんぞくしゅこうげいひん ○タイ山岳民族手工芸品、キャンペーンTシャツ等
27	ワールドバザール	いりょうひん しょうすうみんぞく おりもの ○衣料品（少数民族の織物） そうぐひん ○装具品（ラオスシルク、スカーフ）
28	タヒチ・プロモーション	○パレオ ざっか かんれん ○雑貨 ○タヒチ関連グッズ
29	こめこや かし みせ 米粉焼き菓子のお店 HupiHupi（ヒュピヒュピ）	かし こめこ ○お菓子（米粉ケーキ、クッキー）
30	ユニフェムよこはま	しょくひん がんえん ○食品（モンゴル岩塩、ケニアティー） いりょうひん ○衣料品（チュニック、ストール） そうぐひん こものい ○装具品（バッグ、小物入れ、ポシェット、ネックレス）
31	チニーズ	しょくひん かしかくしゅ ○食品（スパイス、インドのお菓子各種） ざっか ○インド雑貨
32	てのひら～じんしんばい た む かい 人身売買に立ち向かう会	みんげいひん ておりぶつせいひん お せいひん ○民芸品（手織物製品、さをり織り製品） いりょうひん ○衣料品（パティックTシャツ） ○CD きた こ しゃしん てんじ ○北タイの子どもたちによる写真パネル展示

3. 外国籍県民フォーラムの記録

■ テーマ 「外国につながりを持つ子ども達の教育問題を考える～母語を大切にしたい日本語・教科学習支援を通じて～」

■ 日時 2010年9月11日(土) 13:30～15:40

■ 会場 あーすぶらざ2階プラザホール

■ 参加者数 117名

■ 内容

第1部 短編映像の上映

「特定非営利活動法人 多文化共生センター東京 たぶんかフリースクールで学ぶ子ども達」
さまざまな理由により、日本にやってきた子ども達が公立高校の試験に挑戦する様子が描かれた映像（2008年）の上映。

第2部 パネルディスカッション

パネリスト：西山日佐子、李原翔、山野上麻衣、鄭訓栄

コーディネーター：中村ノーマン

総合司会：張恵珠、金載旺

金載旺

みなさま、いかがでしたでしょうか。それでは、これから第2部のパネルディスカッションに移ります。第2部では、母語を大切にすること、日本語教科学習支援、外国人教育相談、の3つのキーワードを中心として、子どもたちの教育支援の実践についてディスカッションを行います。

張恵珠

これより第2部のパネルディスカッションを始めさせていただきます。コーディネーターは中村ノーマンさんです。これからの司会は中村ノーマンさんをお願いします。

中村ノーマン

みなさん、こんにちは。ただいまから第2部を始めます。第2部では、専門家というか、母語を活用した方々が普段行っている活動の紹介と、母語の大切さ、それから日本語教科の学習支援と外国人教育相談の連携についてご紹介したいと思います。今日はできるだけ多く持ち帰っていただこうとかなり厚めの資料を用意しました。この企画への思い、先程のビデオの概要、山野上さんの「カナリーニョ教室」での活動紹介、李さんがプレゼンする内容の資料、西山さんの活動紹介、そして、先程の映像で、外国人に対する特別な配慮が東京都の場合は少ないということでしたが、神奈川県内では10校、104名の特別募集枠があると書かれた資料、外国人学校と教室に関する資料、教育相談、母語を使った相談ということで、県内での相談窓口にルビを振った資料、外国人の子どもを対象にこれから行われる高校進学ガイダンス、進学説明会の資料、先程の映像は東京のフリースクールでしたが横浜のフリースクールの資料。あーすぶらざの2階にあるあーすぶらざ外国人教育相談と、外国人児童サポート情報ということで、日本語学習の情報をかながわ国際交流財団が作っているホームページの情報、私が取り組んでいる高津市民館での「多文化フェスタみぞのくち」に関する資料。それから最後にアンケートがございます。この後今日の趣旨についてお話をさせていただいてから、パネリストの自己紹介とディスカッションに入っていきたいと思います。後半の方で会場からのご発言、ご質問を受け付けたいと思います。

自己紹介をここで少しだけさせていただきます。カナダ生まれで、10歳で日本に来て、外国につながりを持つ子どもでした。日本語を長い時間をかけて習得し、今に至っています。活動内容は先程のチラシにござい

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ いま しちよう しもんきかん かわさきしたぶんかきょうせいしさくけんとういじん
ます。川崎市外国人市民代表者会議をきっかけに、今、市長の諮問機関である川崎市多文化共生施策検討委員
に所属しております。

たよう はいけい も こ らいにち にほん う
多様な背景を持つ子どもたちがいます。来日というケースもあれば日本で生まれたというケースもあるし、
じっさい い さきざき こうりつがっこう じんぞくがっこう がいこくじんがっこう み いじよう
実際に行く先々も公立学校であったり、民族学校、外国人学校であったりと、見かけ以上のものがあります。
しかしその後ろには色んな要素が組み合わさって存在します。文化の違いというのももちろんありますが、
なぜにほんにきたかということが実は重要なこととなります。学習には、意欲を持って、将来の目標を持って
とく 日本にきたかということが実は重要なこととなります。学習には、意欲を持って、将来の目標を持って
取り組んでいかなければ子どもたちの力は出ず、将来は見えてきません。保護者もいろいろで、実は日本
に生まれたからといって、日本語が必ずしも得意になるというわけではありません。場合によっては親を見
て、言語を継承していこうとするといったことがあります。これは本当に様々なので、今日はかなり絞って、
こうりつがっこう かよ いる 子 通っている子どもたちの進路を考えます。根底として重要なことは、実は言葉が大きな隔たりにな
っている、言葉の存在によって理解されない、という面が非常に強くあるということです。母語と聞くと
さき 避けたくなる、もしくは子どもたちを支援しようと思っても、「できるだけ日本語で話をして下さい」と
か、場合によっては「外国語はここでは話さないで」といったことをいまだに言う方がいるのではないかと
おも 思います。しかし、母語という言葉は子どもにとって非常に重要な属性で、実は子どもだけの課題ではなく、
こ と ま 子どもの取り巻く家庭環境、保護者が深く関わってきます。母語を大切にすると聞くと、「あ、外国語を覚
えなきゃいけないんだ」と思う方がいると思います。しかし、実際は母語の大切さを共有したり、大切さを
いしき 意識する、子どもがそういうものを持っているのだということ、認めていく、理解していくということです。
うえ ぼ こ おし ぼ こ おし いろ かんが かつ 上 で 母語で教える、母語を教える、色んな考え方があります。さらに、それを行動につなげていくために、
げんこ しゅうとく かつよう げんこ つか ひとつ つか たいせつ かのう
言語を習得してそれを活用することから、言語を使える人を使っていくアプローチを大切にすることが可能
だと思えます。実は子どもの教育は学校の外にはみ出してしまうのではないかと思います。学習支援で
ある日本語教科の学習支援の多くは学校の外で行われています。一つの例として日本語教科学習支援をとり
あげますと、大事なことは子ども、保護者の目線での支援、それから学習意欲に着眼するということでは
ないか。「学習支援、外国人教育相談って何だ？」と思われる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、
にほんご し さいしゅうもくてき しゃかいじん かんが ぎょういくせいで
日本語を知ればいいのではなくその最終目的である、よき社会人になるということを見ると、教育制度を
しっかり理解すること、学習支援の範疇ではないかもしれませんが、その子どもが何をしようとしているの
か、どこに向かおうとしているのかを理解することは大事なことです。そのためには当事者の目線で理解し、
せんもんてき ちしき がいこくじんぎょういくそうだん ひつよう だん ことば が できるからではなく、知識とのセット
になるのではないかと思います。今日は公立学校での学習支援を考えますが、先程も紹介しましたように、
ことば ぼ こ けいしやうご ことば かんが しえん ほんとう さまざま てん ひつよう かにほんご おし
言葉、母語、継承語という言葉から考える支援が本当に様々な点で必要になります。しかし日本語で教える
ということになると、外国人に対する支援が一番厚いはずなのに、それができていないんじゃないかなと思
います。今日は、母語を大切にしながら外国人教育相談と日本語教育の学習支援を組み合わせることに、よ
りふか りかい ふか さいわ つづ こうし かつがた じこしょうかい ねが おも
り深く理解が深まれば幸いです。続いて講師の方々の自己紹介をお願いしたいと思えます。

やまのうえ まい 山野上麻衣

やまのうえ もう
山野上と申します。神奈川とのつながりは、この3月まで2年間、あーすぶらざ情報フォーラムという所
で「あーすぶらざ外国人教育相談」のコーディネーターをしていました。その話を今日はしたいと思ってい
ますが、その前に4年間、静岡県浜松市というところで働いてきた経験も話したいと思っています。取り組
みから見えた課題とキーワードとしていくつか挙げるとすれば、まず「ブラジル人」、そして「不就学」、「ソー
シャルワーク」、まあ、日本語っぽく言うと、「相談対応」、大きなテーマとして「教育と社会」ということを
かんが 考えながらいつも実践をしています。

なかむら 中村ノーマン

にしやま ねが
ありがとうございます。西山さんお願いします。

にしやまひさこ 西山日佐子

にしやま ひ さ こ わたし よこはましきょういくいいんかい にほんごきょうしつ にほんごこうし
西山日佐子です。私は横浜市教育委員会の日本語教室で日本語講師をしています。また、
さがみはらせいりょうこうこうひじょうきんこうし さがみおおの がいこく こ たち
相模原青陵高校非常勤講師として、また、相模大野のCEMLA（セムラ）という外国の子ども達の
がくしゅうしどう たぶんかきょういく かわさきしこくさいこうりゅうきょうかい がいこく こ
学習指導センターの多文化教育コーディネーターをしています。川崎市国際交流協会で、外国の子どもたち
がくしゅうきょうしつ きょうしつ おこな きょう はなし おも
への学習教室「わかば」という教室を行っており、今日はそちらのお話をさせていただこうと思っております。
わたし いまかんしんも こ つく つかうこうじゅけん ひか こ おお なか
私が今関心持っているテーマは、「子どもたちのカリキュラム作り」です。高校受験を控えている子が多い中
で、そこに照準を合わせまして、学習教室での日本語や教科のカリキュラムを作っていくこと。また、そこ
ではたくさんのボランティアさんが関わっていますが、今日来た子どもたちに今日来たボランティアさんたち
が何をどのように教えていったらということにとっても関心があります。また、教材に興味があり、日本語から
きょうか きょうざい いまかんが つく じょうきょう しょうきょう にほんご
教科へつなぐような教材を今考えて作っているような状況です。

なかむら
中村ノーマン

どうもありがとうございます。では、李さんお願いします。

りげんしやう
李原翔

こんには、りげんしやう もう ちゅうごくこうそしやう しゅっしん にほん き なか いま だいがく がいこくじん
こんにちは。李原翔と申します。中国江蘇省の出身です。日本に来てもう長いですが、今は大学で外国人
の子ども達の適応課題について研究しながら、都立高校、そして、かながわ国際交流財団が実施している「あー
すぷらざがいこくじんきょういくそうだん たずさ きょう がいこくじん こ たち じつたいちやうさ けっか はっぴやう
すぷらざ外国人教育相談」に携わっています。今日は、がいこくじん こ たち じつたいちやうさ けっか はっぴやう
外国人の子どもの実態調査の結果を発表させていただきます。そして子ども、保護者また支援者の視点から、教育のあり方についてお話しします。

なかむら
中村ノーマン

どうもありがとうございます。鄭くんお願いします。

ていしゅんろん
鄭訓栄

こんには、ていしゅんろん もう ねんまえ ちゅうごく にほん き よこはまし ちゅうがっこう
こんにちは。鄭訓栄と申します。5年前に中国から日本にきました。そのときは、横浜市の中学校の3
ねんせい にゅうがく いま かながわだいがくけいざいがくぶ ねんせい ざいがく きょうはな こうこうじゅけん にほん き
年生に入学して、今は神奈川大学経済学部2年生に在学しています。今日話すことは高校受験と、日本に
とうじ ちゅうがっこう せいかつ はな おも
来た当時の中学校の生活について話したいと思えます。よろしくお願ひします。

なかむら
中村ノーマン

ありがとうございます。鄭くんは中学2年生のときに日本に来て、なんとストレートで大学に入ったと
き きょうこう はなし き おも
聞いております。とても参考になるお話が聞けるのではないかと思っています。では、李さんにお伺いした
いのですけれど、さいきんほうこくしよ だ き ちゅうごくじん こ たち ちやうせつ ちやうさ つう
最近報告書を出されたと聞いています。中国人の子ども達への直接的な調査を通じてどのよ
うな結果が見えてきたのか、そのことについて発表をお願いします。

りげんしやう
李原翔

ちゅうごく き こ たち じつたい ちやうさ はっぴやう かんたん ちゅうごく きやういくしじやう
中国から来た子ども達の実態の調査について発表させていただきます。まず、簡単に中国の教育事情、お
よび子ども達の現状について説明します。(パワーポイントを利用)ご覧のように、中国の義務教育期間、お
よび子ども達の入学年齢は日本とあまり変わらないですが、中国は義務教育期間の中でも、留年、飛び級も
できるし、また学齢の制限は日本ほど厳しくないです。そして子どもたちの家庭の事情や経済的な問題によっ
て不就学の子ども、中学進学しない子ども、そして小学校や中学校の時点で学校から退学する子どももいま
さいきんほうこくしよ だ き ちゅうごくじん こ たち ちやうせつ ちやうさ つう
す。大学進学率はまだ20%前後しかないので、大学受験の競争はかなり厳しいです。中国では大学受験は
「(中国語)千军万马过独木桥」とも言われています。多くの親は自分の子どもに対してすごく期待も高く
ちゅうごく さいげん にほん か ちゅうごく ぎむきやういくきかん なか りゆうねん と きやう
「(中国語)望子成龙」つまり自分の子どもが、ひとかどの人物になるよう望んでいます。そういう状況の中
がっこうきやういく しどうほうしん じゅげんちゅうしん せいとひやうか せんせい きやうせき ひやうか がっこう ひやうか すべ
で学校教育の指導方針は受験中心になっています。生徒評価や先生の業績の評価、そして学校の評価は全て
せいせき しんがくりつ
成績、進学率になっています。

さくねん ちゅうごく こ たち じつたいちやうさ おこな いろ わ ひと ちゅうごく らいにち
昨年、中国の子ども達について実態調査を行い、色んなことが分かりました。まず一つは、中国から来日
した子どもの中に、呼び寄せで来日する子どもが圧倒的に多いことです。また、来日するまで、親と離れて

生活している期間がかなり長く、一番多いのは4年間くらい、10年以上になっている子どももいます。その中で、親が長く日本にいらながらも、日本の教育事情についてはあまり理解していません。また子ども達の来日時期は夏休みに集中しているのですが、実際は毎日のように中国からやってきます。来日時期の多様化は、子ども達の学校編入にいろいろ困難をもたらしていますし、また現場にとってもすごく難しい課題が出てきます。出身地を見てみると、福建省が最も多く、続いて東北地方です。そして今中国では格差が大きな問題となっていますが、格差というのは地域の格差、経済の格差、また教育の格差にもなっています。社会の格差と教育の格差は悪循環になっていて、子どもたちの来日時期や受ける教育によって、学力の個人差等の様々な問題が出てきます。また子どもたちも来日によって生活スタイルはかなり変わりました。中国の高校生は一般的に朝6時から夜9時までで学校で勉強しています。つまり本当に勉強漬けの生活を送っています。さらに、毎日宿題をする時間は平均2時間を越えています。日本に来ることによって子ども達はかなり自由時間が長くなってきましたが、逆にその自由時間をどのように過ごせばいいのかも分からないという課題も出てきます。来日後、パソコンゲームやインターネットにはまる子どもも増えました。

母親の意識調査から分かったことは、どういう思いで子どもを日本に呼んできたかということ、子どもの将来のために連れて来たとか、良い教育を受けさせたいから、というはっきりしたプランを持っている親と、中国の祖父母に子どもへの面倒を見てもらえないから、子どもが中国で色々教育の不適應をおこして仕方なく連れて来たという事情があります。また、子ども達への教育の関わりについては、教育のためなら何でも協力します、という積極的な親と、日本語がわからないからどうしようもない、忙しいから関わる時間がないという親もいます。調査の結果から見えたものは、まずは子どもたちの適応課題です。日本に来てすぐ「日本語を勉強しなさい」「教科の学習をしなさい」と言われても、実際子ども達はいろいろな不安や焦りも持っています。特に十代の子も達は進学の問題にも直面し、限られた時間の中でどうやってこんなにたくさんのお勉強をするのか、環境も変わり、人間関係や文化、習慣も分からない中でどうすればよい成績を出せるかが一つの課題です。もう一つ、中国では勉強さえできれば良いという環境ですが、日本は色々な行事や部活動もあります。子どもは自分がどうかかわればいいのかも分からず、選択肢や価値観の違いといった問題もあります。

また保護者にとっては、一つは言葉の壁、もう一つは日本で教育を受けた経験が無いので、自分が何を知らないか、何を知るべきかとか、そのことさえもわからないということです。子どもへの関わり方をどうすればいいか、どれが正しいか、親も実際分からないのです。現場の教育者はよく、「親が関わらない」とか「保護者会に参加しない」と言いますが、実際は親自身がどうすればよいか分からない、ということもあります。子ども達の適応課題は支援者の適応課題ともいえます。言葉の壁があり、子ども達の背景状況が「わからない」ということで、子どもの実際の能力、現状を把握することはとても難しいです。また、先程話したように、中国の子ども達の来日時期とか個人差という多様性に対してどう対応すればいいかという難しさもあります。保護者との意思疎通は言葉の壁や文化の壁があり、かなり難しい点があります。また、支援者に対するサポートが今はかなり足りません。実際は支援者への支援も必要です。以上、調査の報告でした。

中村ノーマン

李さんありがとうございました。実際この調査をするのに子ども達の声を聞く、保護者の声を聞くというところで相当苦労されたのではないかと思います。では、続きまして西山さん、「外国につながりを持つ子どもの第一志望の実現を目指す」日本語教室を川崎市の国際交流センターで実施されているということですが、その活動、特に、母語をどう大切にしているかということをご紹介いただければと思います。よろしくお願いいたします。

西山日佐子

日本語教室「わかば」の活動のお話をする前に、どのような経緯でこちらの教室を運営するに至ったかのお話を少しさせていただきます。私は川崎市の、ある日本語学校で非常勤講師を5年程していたのですが、この間、就学生という、留学を目的にした18歳以上の学生さんたちが大学受験を目指しているクラスに、中学生や高校年齢にあたる子どもたちが一緒に学んでいるという状況を見てきました。クラスを見回してみ

ますと、各クラスに一人二人という本当に幼い子どもがいるんですね。私は何もわからなかったのですが、専任の先生などに聞いたところ、彼らは外国から来て義務教育がないから日本語学校で学んでいるというような説明を受けました。でも私はやはり13歳、14歳で大人と一緒に学んでいて、部活動もなく友達もいないこの子たちはどのような今後が送れるんだろうととても気になっていました。そして修了する時に聞いてとても驚いたのですが、中学年齢の子ども達はそのまま自分達は大学に行けると思っていたんです。自分達がいるのは高校と同じ環境で、ほかの人も高校を卒業しているものでそのような進学指導を受けてきたという話でした。でも実際には、中学校も終わっていませんでしたし、高校も行っていなかったので、18歳になった時点でもう一度高校受験をしなきゃいけないという現状に気づいたんです。そこで私はそのような体制はととてもふさわしいと思いませんでしたので、そちらの学校にお願いして、1年間だけですがそのような子ども達のクラスを開かせてもらいました。試みででしたが、半年の間に17人の子ども達がその一つの小さな学校にきました。その子たちが全て高校受験に合格したかといいますと、4人しか入ることはできませんでした。他の13人は途中で国に帰った子、あとはずっと家にこもってしまった子、あとは外に遊びに出てしまった子など、いろいろいたんです。ですが、それだけの人数があって、その子たちの行く場所がないという現実を見たときに、その教室を作りたいと思いました。

日本語学校では収益があがらないので、クラスを続けるということは困難でしたので、他に移動先を考えていたところ、川崎市国際交流協会さんが教室を貸してくださるということをお聞きして、そちらで日本語教室を開くことができました。今回、母語を大切にしているということをお話しすることなんです。私たちは子ども達全ての言語に対応しているわけではありません。私たちが今できているのは中国語、韓国語、英語、あとはタガログ語といった限られた言語ですが、できるだけ川崎市国際交流協会さんの協力を借りまして他の言語などにも対応することにしています。まず最初に子どもたちが日本語教室「わかば」に来たとき、そのときにはできるだけ保護者の方に一緒に来てもらうようにしています。保護者の方が日本語ができない場合、「私たちできませんから」と言って、会社の方や日本語のわかる方が来ることが多いですが、なるべく保護者の方と一緒に来てもらうことにしています。保護者の母語がわかるように通訳を介したり、こちらのスタッフが通訳を兼ねてお話しするようにしています。そこでとても大切だなと思うのは、その子の様子が本人の言葉だけではわからないことがたくさんあるのです。もしかしたらその子は半年で帰るのかもしれない、もしかしたら永住するのかもしれない、それは本人よりも保護者の方が理解していることが多いと思います。また、日本語教室「わかば」は一週間に一度しか開いていません。その一度の学習支援で何ができるのかといったらほとんどできることなどないと考えています。ただ、残りの6日間をうちでどのように過ごすか、学校でどのような勉強をしているかを把握することで、その子の学習の道筋を立てることができると思います。こちらが日本語だけでお話しするとなかなかその思うところは伝わりませんし、保護者が何を考えているのか、また、本人の希望を聞き取ることはなかなか難しいと思います。そこでなるべく言葉がわかる人を介して、なるべくその思いを直接伝えて直接聞きたいと思っております。日本語学習が始まりますと、なかなか母語で支援をするということが難しいです。「わかば」に来ている子ども達は、中学校卒業後年齢の子ども達が多いもので、大概母語といっても自分の出身の地域や国の言葉を話すことが可能な子が多いです。その子達が持っている母語というのでしょうか、今まで学習して培ってきたものを活かすようなかたちで、なるべくその子にあったような言語を選びまして指導するようにしています。日本語指導に関しても学習支援に関しても、辞書を使ったり、言葉をただ介すだけでなく色々なツールを使って指導するようにしています。

なかむら 中村ノーマン

ありがとうございます。週に一回の学習支援で、毎年高校入学させているという実績もあるんですね。それはやはり子どもの意欲を引き出すという中に、母語を大切にしていることが何らかの関わりがあるんだろうな、と聞いていて思いました。続きまして山野上さんに浜松市の「カナリーニョ教室」でブラジルのポルトガル語を使ってブラジルの子ども達と関わった指導者としての経験、それとこの2年間あーすぷらざ外国人教育相談コーディネーターとしての経験も少し交えながら、現場での取り組みから何が見えてきたかを教えていただければと思います。

やまのうえ まい
山野上麻衣

今お話があったようなことに十分には答えられないかもしれませんが、少しお話をさせていただきます。「カナリーニョ教室」という、今はもうない事業ですが、静岡県の浜松市で行っていた事業についてお話をします。詳しいことは資料の中にコピーがあります。この館内にある、映像ライブラリーに本そのものがありますので、ご関心をお持ちの方はそちらをお借りいただければと思っています。簡単に概要を説明しますと、静岡県浜松市というのは日本で一番ブラジル人の数が多い自治体です。最近景気が悪くなってきて減ってきてはいますが、多いときは2万くらいのブラジル人が一つの市の中に居住していました。カナリーニョ教室は不就学対策事業として始まりました。「不就学」という言葉は最近また話題になっていますが、「不登校」と何が違うかということ、不登校のお子さんには学校の中に机と椅子はあるんですね。在籍していても、何が違うか、だけれども学校に通えないというのが「不登校」です。「不就学」というのは学校に在籍すらしていない、何らかの理由で。そんな子どもたちのことを「不就学」といいます。浜松市にブラジル人が増え始めたのは1990年の入管法改正後なんですけど、10年経ち、学校に行っていない子どもがたくさんいるのではないかと、という問題意識から始まったのがカナリーニョ教室です。教室の特徴として、3点挙げますと、まず第一に就学支援。不就学の子どもたちが学校へ行かない理由は色々あるんですが、単純に日本語ができないから行かないというだけではないことの方が圧倒的に多いです。その背景にある色々な問題をどう考え、どう学校に入るかということに向けて、また学校に通い続けるということも含めてどのようにその子の人生、家族の人生を総合的に見ながら、相談に乗りながら、関係する学校、教育委員会、必要に応じて福祉事務所、そういうところの調整にも入っていました。日本語を教える、教科の学習を教えることに関してカナリーニョ教室が特徴的だったのが、バイリンガル指導ということで、スタッフは日本人が半分、ブラジル人が半分、一応それぞれがバイリンガルとされていたんですが、私のポルトガル語もそこまですごくないし、日本語がそこまですごくないブラジル人の方もいたんですけど、互いに助け合いながら一緒に教室をやっていく、その中で、今その子どもに必要な支援は何なのか、日本語なのか教科学習なのか、教科学習をどのように教えればいいのか、そういう問題意識から、一人ひとりから始まる教育を目指していました。第3の点として、特に2002年という時期は非常に新しかったんですけど、ブラジル人の子どもたちが日本に暮らしていて、いくつかの意味合いがあるんですけど、中にはポルトガル語を忘れていくことで、親御さんとのコミュニケーションが取れなくなっていく、思春期の頃ぐらいに難しい話ができなくなるという話はよくある話ですが、それ以前に、例えば小学校1年生で「明日絵の具を持ってきてください」と先生に言われ、「絵の具」がお母さんに伝えられないから絵の具をもってこれない、そういう事態もありました。またその家庭環境の中で、お父さんお母さんが忙しかったり、また一人親の家庭だったりして、親御さんがお子さんにかまう時間がほとんどない環境に育っているお子さんに関しては、6歳7歳になっても、まったくではないのですが、言語が育っていない。2歳3歳程度の言語しか育っていないようなこともありまして、それでも一応母語はポルトガル語なんですね。なのでそういうお子さんに年齢相応の発達というものを考えたときに、ある程度の母語という視点が必要なのではないか、ということがありまして、母語教育も行っていました。特徴の1番目と2番目は今までの話に含まれていましたが、日本語とポルトガル語、場合によってはスペイン語、フィリピンの子で英語ができれば英語で、ただ、タガログ語とタイ語と中国語はできない状態でしたが、それでも、できるだけ子どもに寄り添うというかたちでバイリンガル指導を行っていました。バイリンガル指導員がいるということの強みはもう一つ、親御さんとの関わりを築く意味でも非常に重要です。特に色々な難しさを抱えた親御さんに対して色々な相談を展開していく上で、ブラジル人の指導員の存在は不可欠でした。先程申し上げたように子どもと家庭が今どういう状況に置かれていて、これから先どういうところに向かっていきたいのか、そのために今何が必要なのか、というところを総合的に支援していくようなソーシャルワークの視点をもった教室でした。この写真は教室風景で、たまたま写っている子は小さいだけですが、年代としては小中学校の年齢から少し超えた年齢の子どももいました。本日のテーマですが、ノーマンさんに「気づき」を教えてくださいと言われたんですけども、多分このあとで鄭さんの話に引き継がれていくと思いますので、事例を紹介します。事例は3つあります。ここで状況を色々共有できればと思っ準備しました。全て実話です。ただし名前は

か 変えてあります。とうじょう 登場する子たちはぜんいん 全員ブラジル人じんで、たまたまぜんいんおんな 全員女の子になっ てしまいましたが、じれい 事例 を読みあげます。タイナさんという女の子は来日時、中学生年齢で、言葉の壁は大きく、性格的にもやや 内向的でおとなしい子でした。そのため友達が中学校に入ってもできないことに悩んでいました。その学校 にはブラジル人はほとんどいませんでした。彼女をさらに苦しめたのは、ブラジルではタイナさんはとても 優秀でしたが日本に来た途端、日本語のため、授業が全くわからないことでした。タイナの夢は大学まで 行って生物について勉強し生物学者になりたいということでした。タイナは「勉強がしたい」と何度も何度 も言っていました。「日本語を教えてくださいる人はたくさんいます。だけど自分は勉強がしたい。」この言葉の 意味をちょっと考えていただきたいと思ひます。それでもしばらくがんばって中学校に通いました。わから ない言語で授業を受け続けなくてはいけない負担が限界に達していたのだらうと思ひています。新学期が 始まる時に、タイナは学校に行けなくなってしまいます。学校に行かなくちゃという意識は結構強くて、 毎朝電話がかかってくるんですけど、「今日は学校行きたくないんだけど行かなきゃだめかなー」、ポルトガ ル語で電話がかかってくるんですけど、ただどうしても学校に行けない。彼女が言うには学校に行ってもや ることがない、周りの子ども達が自分の悪口を言っている気がする、日本語がわからないから「気がする」 なんですけれども、周りで誰かがしゃべっていると、それが自分の悪口なんじゃないかと気になってしょう がない。そういうことを訴えて、この子は残念ながら中学校に通えなくなり、ブラジル人学校に移っていき ました。

べつ 別の事例でラリッサに出会ったのはもうかのじよ 彼女が15歳のときだったんですが、かのじよ 彼女が語ってくれたことによ ると、日本に来たのは10歳のときです。日本に来たときは日本語はわかりませんでした。それでも小学校 の周りにブラジル人の友達がたくさんいて、助けてくれて、その助けもあってひらがなとカタカナと漢字も ちょっと覚えることができました。でもお父さんの仕事が変わって、派遣会社、正確に言うと業務請負です が、いわゆる工場での労働と住居がセットになっている雇用形態で仕事をクビになってしまった、そうなる とアパートを出ないといけないうですね。そのために、5年生の途中で引っ越さないといけなくなりました。 ひっこ 引っ越した先の新しい学校にはブラジル人の子は他に一人もいませんでした。日本人の友達にはできるんです ね、この子友達をつくるのはとても上手な子で、友達は休み時間になると誘ってくれたり、日本人の友達か ら「ポルトガル語教えて、教えて」と、少し覚えてくれたりもしました。わりと給食がネックになるんですけど、 その給食にも慣れた。だけど、ただただ授業がわからなくて、難しく、理科とか国語とか、これもインタ ビューしてわかったことです。ラリッサの場合は、体調を崩すというところまで追い込まれていきます。ラリッ サの言葉です。「学校に行くのは好きだったのに授業がわからなくて。病気になって。それで病院に行ったら、 どこも悪くないって言われて。身体のことじゃない、気持ちの問題だらうって。授業中ただ絵を描いている だけだったり、勉強していないというか、体育の授業には参加した。図工の時間とか好きな授業もあった。でも、 どうしても無理だった。とても難しくて。」ラリッサは学区外就学をすることになります。ブラジル人が多い 学校だったらなんとかなるんじゃないかということで。しかし転校先のブラジル人の多い小学校ではブラジ ル人の子どもが残念ながら助けてくれませんでした。日本語が話せるブラジル人の子たちは日本人と遊んで ばかりで、ラリッサはそこでもまた疎外感を覚えて最終的に卒業を目前に小学校を辞めてしまいます。今は すごく後悔をしていると本人は言っていて、この子に関しては15歳のときにカナリーニョ教室に現れたんで すが、ブラジルの中学校卒業認定程度の試験にチャレンジして合格したので、ブラジルでいう1～8年生ま での卒業課程の修了はしています。

つぎ 次のジュリアナはかなり成功しているタイプの部類で、いまちゅうがっこう 今中学校の英語の先生になるために教員採用試験 の勉強中です。大学を卒業しました。教職課程を取って無事に卒業しています。大学生のときに中学校に じっしゅう い 実習に行きました。受け入れ先の中学校で、彼女は日本語とポルトガル語と英語ができるので「三つの言語 が話せるなんてカッコイイ！」と生徒たちがすごく、「カッコイイ！カッコイイ！」と言ってくれたときに、 「ああ、頑張ってきてよかった。自分の人生のこれは勝利の瞬間だ。」と思ったそうです。ですが、そんな かのじよ 彼女の泣きながら語る話があります。かのじよ 彼女は中学生のときに来日して中学校の授業で、惑星の名前を聞かれ た。火星とか水星ですね。小学生でも知っているような簡単な問題で、ポルトガル語でなら答えられた。だ けど日本語で何て言うかわからなくて、それで答えられなくて、「ああ、私は小学生でもわかるようなことを わからないうって、あいつバカだなんて周りからは思われてるだらうなって思っ て、悔しくて悔しくて、授業

が終わったらすぐにふれあい教室に駆け込んで泣いた。」ふれあい教室ってというのは、横浜市では国際学級とか日本語学級とか、色んな呼び方があると思うんですけど、浜松では日本語を母語としない外国人の子どもに対する特別な教室です。そこには彼女は居場所があって、そこで支えられて高校にも進学し、大学にも進学し卒業しましたが、そんな彼女でさえ今でもこの話をするときは必ず泣くんですね。「この時は悔しかった。」その悔しさをバネに変える力を持てたのは、おそらくふれあい教室での素晴らしい先生との出会いがあったからだろうと思うのですが、こういう状況が、日本に来た子ども達には起こっているということですね。ここでいったん問題提起をしてから鄭さんに引き継ぎたいと思いますが、この子たち、えてして日本語がわからない子どもが来ると、とりあえず日本語を、とってとりあえず文型を、「私はマリアです。ブラジルから来ました。」というようなことを文型を積み上げていくような授業をしがちだし、日本語ができなけりゃしょうがないじゃない、と思われるりもします。でもそれでいいんでしょうか。この子達に本当ならばどんな支援が必要だったのでしょうか。ノーマンさんはこういうところを多分まとめてほしかったと思うんですけども、かなり答えが鄭さんの話の中に出てくるはずなので、いったんここで鄭さんにバトンタッチをしたいと思います。

なかむら 中村ノーマン

山野上さんありがとうございます。今のお話が鄭くんに引き継がれるということですがけれども、鄭くんは、公立学校の中で非常に特別な支援を受けたことがあります。それによってきっと人生が大きく変わったのではないかと私は想像しています。中学3年生のときに実は西山さんが仕事としてある中学校に派遣され、その学校の中でかなり必死になって駆けずり回って、鄭くんはきっと日本語という壁があるだけで、もっと勉強ができるんじゃないか、実態はわからないけれど賭けてみようということで定期試験を中国語で受けることができました。鄭くんに聞きたいのは、中国語で定期試験を受ける前と後で、どんな風に自分の考え方が変わったか、教えていただきたいと思っています。

ていしゅんろん 鄭訓栄

最初に日本に来るのは自分の意思ではなかったですね。親に旅行するからと、日本には旅行気分であつて来ました。そして日本に来た後に中学校に連れて行かれて、それから日本で生活すると言われて、騙されたような気分ですごく嫌な感じでした。学校に行っても言葉はわからないし、友達もできなくて、中国では寮に住んでいて、朝学校へ行つて、夜勉強したら友達と一緒に遊んで、週末も友達と一緒に遊ぶけど、日本に来たら朝学校に行つて授業をして帰ったらパソコンやつてすぐ寝るという繰り返しの毎日です。最初の学期の成績は、平均2点として、トータル評価を17しかもらえなくて。その後もう一回定期試験があつたんですが、その時いきなり中国語で書かれたテスト問題がきました。僕も最初は知らなかったんでびっくりしました。テストを中国語で受けて、結構良い成績をもらったんですよ。数学は5をもらって、先生もびっくりして僕のところにきて、話しかけてくれて、何話してたかわからなかったんですけど、先生はすごく笑顔で話してくれました。その前は実は、僕は音楽、美術と体育以外は全部取り出し授業で、先生と一対一の日本語の勉強をしていました。先生は週に一回しか来られなくて、その時は中学校の日本人の先生と一緒に日本語の教科書を読んだりしていました。定期試験が終わつた後は、だんだん理科など、国語以外の授業はみんなと一緒に受けることができるようになりました。そのことは、すごく高校受験のためになったと思います。もう一つのきっかけは、当時バスケット部の顧問の先生がぼくに中国語で訳した手紙をくれました。ちょっと文法が変だったので、先生が自分で一生懸命辞書を引きながら訳してくれたのだと思います。そこまでしてくれたことに、すごく感動しました。その後、僕は先生が担当していたバスケット部に所属して、学校の勉強以外のこともやつて、バスケット部で友達を作つてすごく楽しくなってきました。そこから日本での生活も前向きになって、高校受験や大学受験を頑張ることができたと思います。

なかむら 中村ノーマン

ありがとうございます。鄭くんの優秀な成績というのは、私が聞いたところ、学年でかなり上位の方に入つたということです。日本語と中国語で、試験を受けるときにこれだけの学力差が出てしまうというのは、

それは何か手助けしていかねばならないのではと思います。本当は西山さんに一言聞きたいのですが、それがどのくらい大変だったのか、ちょっと教えてもらえますか。

西山日佐子

まず、学校の外に定期試験が事前に出してしまうというのは本当に無いことで、だめなことで、私も今日初めて話します。9教科あったのですが、その試験問題を外に出さないという誓約書を書きまして、いただいたのが前日の夕方5時でした。B4サイズの30枚ほどのもので、私一人ではどうにもなりませんので、私と大学生3人が集まりまして朝までかかって4人で急遽訳すことができました。ただ美術や音楽の歴史といったものは、やはり彼らは就学生ですので、日本で教育を受けていないので、言葉を見ても聞いても何のことだか分からないので、インターネットで調べたり、母国の中国の友達に電話して、中国語で何なのかを聞いたりして作成しました。最終的に、当日10時半にFAXで試験問題を送ることができました。最初の教科は多分英語だったと思いますが、仕方が無いので日本語で試験を始めていて、やっと間に合ったので、途中で差し替えた先生がおっしゃっていたのを記憶しています。成績については、先ほど彼本人が言っていたのでいいと思うんですけど、最初のテストで1だった成績、数学も計算問題しか答えられていなかったんですけど、テスト問題を母語の中国語の言葉に変えることによって、学年で2番になったということで、その時の数学の先生が私たちのところにも来てくれて、「私たちはなんていう評価をしてしまっていたのだろう。この子は高校に行くことができなかつたかもしれない。本当に大変なことをしていたんだ。」とってくださったことが今でもすごく心に残っています。

中村ノーマン

ありがとうございました。一回の試験を自分の母語で受けることによって、自信が満ち溢れ、周りの見方、特に教員の方ががらりと変わってしまったというのは、これは一体どういうことなんだろうと考えなければならぬことだと思えます。では続きまして、山野上さんは様々な自治体における外国人の児童に対する取り組みを知っている方です。今ご紹介ありました事例についてどういう風に受け止めるか、その可能性について感じるところをお話願います。

山野上麻衣

はい、自治体の取り組みとか、定期テストというものを翻訳するか通訳するかというのも学校の判断だと思えますね。実は私が冒頭に事例を挙げたタイナさんの学校は私を通訳に呼んだことがあります。彼女が学校に編入したのが10月だったんですが、その一週間後に定期テストがありました。私が色々「この子はもっと優秀なんだ」と言っていたものですが、その子が優秀だとするのなら、今の状況でテストを受けさせるのはかわいそうなのではないかと学校のほうが判断し、テスト問題を事前に流すということではなく、「山野上さん、是非学校へ来てください。別室受験に付き添ってください。信頼しますから通訳をしてあげてください。」というように言われました。私も慌ててブラジルのポルトガル語で書かれた数学とか英語とかの教科書を山ほど抱えて学校に行き一日付き添いました。私の通訳も多分そんなに十分ではなかったし、すごく良い点数は取らなかったのですが、数学や英語なんかは割り取って、それが彼女の自信になったことは間違い無いと思います。それができるかどうかという問いよりは、やろうと思うかどうかだと思えますね。できるかできないか、そんな通訳なんてできないとかではなく、テストの問題を外に流すということではなく、ちょっと話が先に飛ぶのですが、考えていただきたいと思うことがあります。

私は2007年にアメリカで難民をたくさん受け入れている学校を見に行きました。ちょうど日本でいうところの、全国学力調査をやっていました。テスト自体には批判はたくさんあって、別の問題なので、ここでは話さないのですが、全国調査なのに州によって運用が違うという面白いところがありました。アメリカは連邦国家なので、他の州では全部翻訳してやらせるところもあるらしいのですが、私が行ったオハイオ州で見た光景としては、難民が非常に多いのですが、いろんな国の子がいる、いろんな母語の子がいるなかで、まずテストの際に辞書の使用がOKです。すべての子どもたちに一人1冊ずつその子の言語の辞書がありました。これはちょっとお金がかかる話かなとは思いますが、ただ、辞書を持っていても、定期テストのと

きに入試の時の辞書の持ち込みについても都道府県によって運用が違いますけども、そういう使えるものを使わせるかどうかということが1つありますね。あともう一つ、問題を全部、先生が読み上げていました。ちょっと読むのが苦手だけでも、聞いて選択肢1、2、3と一生懸命聞いていけば、これが答えだと分かるものもあるんですね。それは先生が読み上げることによって補っている。3点目、時間が無制限なんです。終わった子は静かに適当に別のことをしているんです。実際に無制限と言っても、そのうちどこかで音をあげるときが来るんですけど、自分でじっくり十分に時間をかけることができたと思えるまで待つんですね。これは国籍には関係なく、その州ではESLと呼ぶのですが、親のどちらかが外国ルーツで英語が母語でなければそういう措置が認められるということです。最初の辞書に関してはそんな少数言語の辞書なんて買えないし、予算もないしということが言えるかもしれないのですが、先生が読み上げるのなんて、やろうと思えばいつでもできますよね。時間無制限も学校の日課が崩れるというのはありますが、基本的にはできることだと思えますね。そこで出てくるのが、「なんで外国人だけが。ずるい。」というのが生徒や先生から、あるいは保護者からも出てくると思うんですね。そういうところも冒頭で出た多文化フリースクール東京の課題にもあったような、何が平等なのかとか、平等でなければ公平や公正という言葉でもいいと思うのですが、そのところを考えない限り、通訳を入れられるかということよりも、根本的にその子がいままで勉強したことをもって日本に来たけども日本語が分からない、その子の何を見て評価をするのか、どのように評価するのかということを考えていく、その時にやっぱりできる限り評価をしてあげたいなと思ったら、多分、もうちょっと手立ては出てくるはずなんですよ。通訳が運よくいけばいいでしょうし、西山さんはお金をもらわずに翻訳しましたよね。西山さんを含め一生懸命翻訳してくれた留学生たちはお金はかけずにやってくれたと。だからそこは、できるかできないかではなく、やろうと思うかどうかだと思いますね。テストのことだけでなく、授業中のシーンで自分はポルトガル語ができない、中国語ができないではなく、対訳されたものや翻訳教材や辞書をどう使うかということを含めて、出発点としてその子の母語をどうとらえるかという視点をまず持つことから始めるべきだと思います。

なかむら 中村ノーマン

ありがとうございます。ご指摘の話では、私たちの大きな共通点は当事者の目線に立つ、その力を計るということですね。残念ながら事例2つとも学校の外の目が学校のなかの目よりも肥えていることがあるのかなと思います。同じように学校の外での取り組みとして西山さんのところは、子どもが最初に来た時にお話を聞いて、元々どんな学力を持っているか、どんなふうで成長していきたいかということを活用するというお話でした。冒頭で私が申し上げましたように外国人の教育相談はものすごく専門性が高いです。言語が話せるだけではまったく役に立たないと言ってもいいくらいです。西山さんの場合はおそらくいるんなところを見たり聞いたり、いるんなところで自然に出会ってきたのではないかと思います。日本語教室わかばで外国人教育相談に取り組んでいるときに、どういったことを大切にしているか教えてもらえますか？

にしやま ひさこ 西山日佐子

今、ノーマンさんがおっしゃったように、外国につながる子どもたちの教育相談は非常に専門性の高いものだと思います。私も私個人が一人で相談を受けている形はとっておりません。私の所属している教育委員会や、市や県の窓口、それから支援団体に必ず確認をとったり、非常に複雑な話になると、専門的な機関へご紹介させていただいています。大切にしていることはやはり山野上さんのお話にもありましたが、その子どもたちがどのような活動やどのような志で来たのかということを確認することです。日本の教育のシステムと育ってきた国や場所の教育システムが一概にして同じとは言えません。そのなかでその子たちの望むもの、やりたいもの、またやりたくないこと、日本に来たからと言って、日本語を必ず勉強しないといけないというのはなかなか難しい話だと思います。自分の国にいたって勉強が嫌いだったとか、学校がいやだったとか、何でこんなことをしなければいけないのと思いつつ来た子たちもいっぱい知っています。その子たちの話もきちんと聞いていきたいと思っています。そしてその子たちが無理のないような形でその子たちの望むものを実現できるように相談をさせていただくようにしています。教育相談を受けるのは私のほかにもう一人のスタッフに限っています。ボランティアの方はお父さんだったりお母さんだったり

教育に関しては私なんかよりは本当に先輩だったりするのですが、それが外国の方でも、自分の子どもが「在日外国人等特別募集（外国人特別枠）」で受検しているというわけでもありませんし、またビザなどいろいろ複雑な問題も絡んできた場合には、専門的な勉強をしていないと相談を受けていただいた後に責任が取れませんので、そのような形をとっております。

中村ノーマン

ありがとうございました。かなり多岐にわたる情報が必要、ネットワークが大事である、と伺いました。また、保護者として向き合うということもおそらく西山さんと倍くらいの年齢の方とコミュニケーションをとる、世代間コミュニケーション力も必要になってくるのかなと思いつつ伺いました。では、李さんにお話をさせていただきたいと思つています。学校に入って保護者のための通訳をしていると伺いました。心の問題が何で、どう対応するのかということも重要なことだとうかがっております。そこについてのお話とそれから、「あーすぷらざ外国人教育相談」の内容についてご紹介させていただきたいと思つています。

李原翔

結論から言うと、外国人の子どもへの教育支援は保護者のご理解と協力がないと絶対にうまくいかないと。思つています。なぜ保護者への支援が重要かという、家庭は子どもにとって何よりも大切な居場所です。一日言葉の分からない難しい学習をしてきて、家に帰ったら子どもはやはり休みたい、自分の辛さや大変さを理解してもらいたいと思つています。そういうところで、保護者の理解が大切です。また、外国人の子どもに限らず、子どもにとって親の理解や真摯な関わりは子どもの健全な成長につながっています。親への教育支援に関しては、いろいろなスタイルがありますが、教育相談などの教育支援活動がとても有効だと思つています。まず1つ、親の視点を理解することだと思つています。つまり、保護者はどういうところで困っているか、どういうところでつまづいているかを理解した上で支援に入ることが重要です。保護者への支援は情報の提供と言っても、現在たくさんの資料を、母語に翻訳したり通訳を派遣したり、これらも本当に大切な支援ですが、ただ母語に訳しただけでは支援にはつながらないのです。というのは、日本人にとっての常識は外国人にとっては非常識であることがたくさんあります。逆にもっと丁寧にいろいろなことについて説明する必要があります。もう一つは親子の関係性への支援です。1つは親子の相互理解、もう一つは親のネットワークづくりへの支援も大切です。そして何よりも子どもの現状、子どもの大変さ、親としての役割の理解が大切です。日本語が分からないからどうしようもない、ではなくて、日本語が分からないからこそ一緒に子どもたちと勉強をしたり一緒に関わっていくことが重要ではないか、本当は日本語が分からなくても、親として十分子育てができるし、子どもの支援にも自信をもってできると思つています。

それから子どもたちの学習に関しては、例えば「日本に来たから日本語を勉強しなさい」、「このテキストの基礎のあいうえおから一緒に勉強しましょう」と言つても、子どもにとってはなぜ日本語を勉強しなければならぬかと思つてしまうところがあります。

また、しばらく勉強したら、いくら勉強してもなかなかうまくできない、このような場合はどうしたらいいか、そのような焦りが出てくるところを、日本で日本語を勉強するにはそのプロセスはどのようなものなのか、どういう方法論があるかなど、子どもたちに理解してもらつて必要があります。それから、勉強に関しては、さきほど話した中国と日本の学校生活の違いで、日本に来て自由時間が長くなって、子どもたちは遊び放題になって、という話もあります。そこで、特に低学年の子どもたちの学習支援に関しては、学習習慣の定着、家庭での学習指導と学校の学習指導が一致することも重要です。もうひとつ、進路に関して、中3になってから子どもの進路指導に入るのは遅すぎると思つています。親や子どもに対して日本の進路システムはどのようなものか、学校の評価はどのようなものなのか、中1から少しずつ話を進めたほうがいいと思つています。子どもたちの進路支援は、勉強だけではないです。人間関係のところで孤独感を感じたり、勉強がうまくいかず挫折感を感じたり、そのようなところで子どもたちの適応範囲を理解すること、これは母語でないと難しいですね。日本語で言つてもなかなか伝わらないので、こういうところは少しでも母語を使えば伝わりやすいと思つています。

もうひとつ、なるべく子どもたちの悩みや考えていることを聞き出して対応していく必要があります。例え

ば、日本で勉強する、これから日本で生活していくうえで、子どもたちは日本の文化とか、日本の言語に対して敬意を払って勉強していくことが重要です。モチベーションを高めることを考えながら教育支援をするべきです。子どもたちは言語のハンデを持っているので、現場の先生や支援者も、かわいそうだとか、お客さんだとか、そういう思いも持ちやすいのですが、実際、言語のハンデとかいろいろな体験をしているなかで、たくさんのプラス面や可能性もあるので、そこにも注目していただきたいです。支援は、やさしくするだけでは不十分です。必要な厳しさと、ほどほどの支援、何でもやってあげるのではなくて、これから子どもたちが主体的に自ら勉強していけるように、見守りながら支援していくべきです。

最後に「あーすぷらざ外国人教育相談」について簡単にご紹介します。あーすぷらざの外国人教育相談は外国人の教育に関わる相談が特色です。日本語だけではなく、中国語やタガログ語、スペイン語の対応もできます。ここで一番素晴らしいのは、日本人の専門スタッフと母語のできるサポーターがチームワークで一緒に支援を行っているところです。日本語教室や学校の編入や市のいろいろな手続に関して情報提供だけでなく、子どもたちの言動や親子の関係に関しても相談に応じています。行政や学校といった関連機関と連携して最善のサポートを提供しています。母語による相談の特徴は、相談に来る側にとっては、聞きたいこと、言いたいことを安心して話せる、聞けるということもありますし、いろいろな情報を正確に理解できます。相談を通して自分の思いとか悩みとか整理もできるし、ストレス発散にもなります。実際に自分が今悩んでいることをうまく言えないと人間はすごくイライラしやすいし、抑えきれないといつか爆発しそうになります。そういったところで、あーすぷらざの外国人相談はいろいろな役割を果たしていると思います。このような相談窓口は稀です。教育相談のとなりに情報フォーラムがあります。情報フォーラムというのはたくさんの雑誌や多文化共生や国際理解に関する情報や資料を備えている場所です。日本語コーナーには1400件くらの日本語学習に関する資料が置いてありますし、多文化子ども支援コーナーは、全国から700点以上の資料を収集しています。こういった素晴らしい施設は是非たくさんの方に知っていただき、また利用頂けたら、私たち支援者にとってはうれしい限りです。是非ご利用してください。

なかむら 中村ノーマン

李さん、ありがとうございます。教育相談についてももう少し私のほうから補足をしたと思います。あーすぷらざでは、教育に関しての相談だけではなくて、情報提供できる場であるということが特徴ではないかと思えます。特に教育に関する情報に、日曜や週末にアクセスできるというのはなかなか無いことで、自治体の方や私も教育相談を通じて知り合った方もいます。教育相談の背後にはいろいろなことがあるということで、配布資料の一番上、企画の内容と書かれた資料の裏側に、かながわ国際交流財団のホームページから財団の事業の中で「多文化共生の地域づくり」に関する事業を一覧表で整理させていただきました。教育相談と他の事業の関連性について、これは私見なんですけど、これだけ広いことをやっているから教育相談に深みがあり、地域に信頼されているんだろうなと思います。深い情報、研究も含めて行うからこそ、単に誰かが窓口に乗っている、言葉のできる人がいるだけのサービスではない。事業が全部一体化して動いているから、あーすぷらざの外国人教育相談は結果として子どもが自分の進路の悩みを安心して電話で相談して、もう一度直接相談窓口にくるといったことがあるのかなと感じました。話を少しパネリストのほうに戻して、西山さんがさきほど少しネットワークについて話をされていましたが、日本語教室「わかば」が単独では成り立たないので、他の組織とどんな連携をとっているのか、きっと他の人にとっても参考になるような話があるのではないかなと思うので、お聞きしたいと思います。

にしやまひさこ 西山日佐子

連携という話ですが、ここでは機関と人という2つの大きなものに分かれると思います。まず連携する機関ということで言いますと、日本語教室「わかば」は川崎市国際交流協会にお部屋を借りることができています。「わかば」を立ち上げようと思ったときに、川崎市の駅前にある施設を見て回ったのですが、一時間2000円とか3000円とかいうお部屋代を提示され、どこも借りることができなかったんです。その時に川崎市国際交流協会さんから、お部屋をそのような活動でしたら是非使ってほしいというお話をいただきまして、少しの年会費で使わせていただいています。このような支援教室を作るときにとっても大切な連携だと

おも 思っております。また、かわさきしそごうきょうい 川崎市総合教育センター、カリキュラムセンターがにほんごきょうしつ 日本語教室「わかば」を連れんけい 携したい団体として挙げてくださいたいようにお伺いしています。こちらでは日本語の初期指導をなさっているということで、その続きということでしょうか、その支援が終わった後の子どもたちのフォローや支援などをにほんごきょうしつ 日本語教室「わかば」でできたらいいのではないかと考えております。

また、もう一つのひととの連れんけい 携ということですが、ここでは私はボランティアさんのことをかんが 考えております。私は横浜市で普段仕事をしているのですが、横浜市は55言語の子どもたちが横浜市内に住んでいるといわれています。私のようなにほんごこうし 日本語講師が一応母語対応という形で謳ってはおりますが、毎年7～8言語しか対応できていない状況があります。なので、私も鄭くんの学校にお伺いしたときはたまたま中国の生徒を対応することになりまして、私も話せる言語だったのでよかったのですが、私も本当に20くらいの言語の子どもたちにいままでたいおう 対応しております、それで母語を活用しているかと言えば、決してできてはいえませんが、ただその時でも例えば本人と話ができなくても、お父さんやお母さんと英語でお話ししたり、ほかのツールを使ってコミュニケーションが取れたというような経験をたくさんもっております。私もいろいろな支援者の方とお話をすると、「外国から来た子や外国とつながる子には、まずは日本語指導よね」ということを多く聞きます。本当にそれはそのようなことだと私も納得はするのですが、それはすごく単一的な感覚を持たざるを得ないですね。たくさん言葉を使ってあげよう、と、さきほどもお話しになったと思うのですが、その時にその子と何かコミュニケーションをとれるような、さきほども言っていました、辞書を用意するとか、例えば、映像でもいいと思うんです。写真でもいいと思うんです。それがことば 言葉なのか、映像なのかの違いはあると思うのですが、その子とコミュニケーションをとったり、その子の思うことを引き出す手段としては変わりないと考えております。

川崎市国際交流協会さんからはきょうしつ 教室のご提供だけではなくて、ボランティアさんのご紹介も受けております。その時、ボランティアさんと面接というか、最初にどのようなことをしているかをせつめい 説明させていただくときに、よく言われるのが、私は母語ができません、私は日本語しかできません、私は学校の教科を少し教えることしかできませんとかいうようなしょうきよくてき 消極的でない方なのですが、やりたいいぎ 意義とかたくさん持っていてらっしゃるんでしょうけど、なかなかそういうきっかけを与えられなかった方もいらっしやいます。私がここでお話しするのは、できないのではなく、これができるとか、それが好きだとか、楽しいと思える、子どもと何か一緒に同じ目線で楽しめるという気持ちを持ってくださればそれでいいんじゃないですか、ということなんです。何か日本語の先生とか、教科を教えるとか言うと、ものすごく上手なやり方とか教え方とかあるような気もするんですけど、それはそんなものがあつたらみんな何も困っていないわけで、やはり人と人との関係でその子が必要としていることをなるべく負担の少ないようにどうすればいいのかなと考えてあげたり、できる人という方と今後とも連れんけい 携していきたいと思っております。「わかば」のチラシを一枚入れさせていただいて、ここに少し書いてありますが、他のボランティア団体さんもそうだと思いますが、やはり中学校以降の少し大きくなった子どもたちの学習支援というのがたいへん難しい状況になります。私たちもちゅうがく 中学・高校の年齢で物理や化学が難しくなってしまうというけいけん 経験をお持ちの方も多いと思いますが、それを教えるのが私たちも難しい状況があります。もし志のある方で、手伝ってみようという方がいらっしやいましたら、またご連絡いただければと思っております。以上です。

なかむら 中村ノーマン

ありがとうございます。外国人に接しているということで、必ずしもことば 言葉の面で抵抗を感じる必要はなくて、外国につながる子どもたちとどう向きあうか、その向き合い方をさが 探していく必要があるんだろうと思います。日本語教室わかばでは、きょういくそうだん 教育相談を行っており、このあーすぷらざでもがいこくじんきょういくそうだん 外国人教育相談を行っています。子どもの母語を話せない日本語教師が母語を大切に取る取り組みのための可能性がきっとあるんだろうなと考えています。西山さん、李さんの話から、非常に専門性の高いと思える外国人教育相談なのですが、さきほどのけん 県の資料にもあるように、きょういく 教育に特化しているところは非常にすく 少ないです。しかし需要は非常に高いし、実際は相談というよりもソーシャルワークに近い領域のかなと思います。こういう人たちをどうするか、増やしていけるか、きっと神奈川の多文化共生のためには重要なことではないかと思えます。山野上さんがかんが 考えのことをお聞かせ下さい。

やまのうえ まい
山野上麻衣

西山さんも李さんもバイリンガルで日本語と中国語を話される方で、その上に専門分野をお持ちで相談対応ができる、こういった方は非常に限られると思います。対応できる言語を増やしていくという視点で考えたときに、確実に双方向の取り組みが必要だと思います。双方向というのは、教育自体は、もちろん学校の先生も当然教育相談をするわけですね。その意味では教育の専門家であり、教育相談の専門家です。同時に、今神奈川県、あるいは川崎市などでもスクールソーシャルワーカーさんがいらっしゃるのですけれど、そういう方たちも教育相談を含め相談援助のプロフェッショナルです。まず、ひとつ大事なことは外国人のことを外国人支援活動だけが囲うのではいけないと思います。そういう意味で日本人の専門職が、自分のターゲットや対象は日本人だけだと思っているとしたら、それは大きな間違いで、たくさんの国からいろいろな文化、言語を持った方が今の神奈川に住んでいる。そのことを見据えたうえで、日本人でいわゆる専門職という人が、外国につながる人たちのこともしっかりと視野に入れていくような仕掛けをしていくことがとても大事だと思います。私は教員研修ですとか、ソーシャルワーカー、日本語でいう社会福祉士の研修に呼ばれたことが何度かあって、チャンスがあればお話しをしているのですが、やはり問題として、問題という言葉はこちらで決めるのも何なのですが、言葉が違うということ、いろいろなことが見えなくなってしまっている、そこをきちんと見えるようにして、共有していく、解決のための道筋を考えていく、そこに日本の主流の社会を巻き込んでいくというのがとても大事だと思います。それと同時に別の方向から当事者の方が、自分で声をあげたり、問いかけたり、さらに問いへの解決を考える、そういうことが今なかなかしにくい社会だとまだまだ思います。私は李さんが教育相談サポーターを始められたときから一緒にやってきたのですが、やはり当事者の方がいろいろな情報にアクセスしたり、自分たちが抱えている問題を客観的に考えたり、それを発信したするというのはすごく大変なことだし、ここにいらっしゃるみなさんは李さんや鄭さんの話に耳を傾けてくれると思うのですが、なかなかそこまでの自信を持つのは難しいことです。自分の声なんて誰も聞いてくれないんじゃないとか、例えば、お二人は日本語がとても上手ですが、自分の下手な日本語では誰も聞いてくれないんじゃないか、日本語で人前で話す自信がないとか、そういったところをちょっとずつサポートしながら当事者が専門的なスキルを身につけていくというのが大切だと思います。かながわ国際交流財団でも多文化ソーシャルワーカーの養成というか、実践者を集めた講座をやっていて、今言った両方の流れがあると思うのですが、日本人を対象としてきた日本人の社会福祉士さんの参加もありますし、当事者でそういう活動をやってきた方も一緒に参加されています。ただ、まだまだ十分ではないですし、芽からちょっと双葉が生えてきたくらいだと思っています。あーすぷらざの教育相談も、私はこの3月でやめて別の仕事をしているのですが、完璧だと思っっているわけではないです。完璧だと思っっているわけではないですけども、当事者が力をつけていくというプロセスと日本の主流社会がそういうところに目を向けていくプロセスの中間に属し、繋いでいく立場だと思っています。私や西山さんのような、なぜか人からあまり誉められない良く分からない仕事を仕事として選んでしまった人たちがいる、それをつないでいくといったところに焦点があり、もうひとつ両方の側面からのアプローチを進めていくことがとても大事だと思います。

なかむら
中村ノーマン

ありがとうございます。続きまして、鄭君に質問したいと思います。1つは母語を活用して学習支援を受けたことがあるかと思いますが、その時にそれが日本語でどれが中国語か、混乱するということのようなことは感じませんでしたか？よく、母語は使わないで日本語だけで話しましょうというようなことが一般的には言われるのですが、鄭君はどう感じますか？

ていしゅんろん
鄭訓栄

私の場合は、混乱はあまりなかったですね。逆にクラスで中国語を話すのはカッコイイというイメージがあります。クラスメイトからも、中国語を話してみてもか、中国語で何て言うのとか、聞かれていました。国語では、漢字は中国と日本で微妙に違うと思います。そういうところで、中国語の漢字を書いてしまった

のですが、その時は先生も3カ月間つきあってくれたのでそこは大丈夫でした。

なかむら
中村ノーマン

ありがとうございます。鄭君の場合は、高校を卒業して非常に良かったと聞こえました。バスケの顧問の先生が非常に努力をしたというか、鄭君に出会ったことをきっかけに中国語に取り組んだのだらうなと思います。だからお互いに努力していくことがきっと大事で、その中で、言葉の面でもお互いに尊重していくのが大事だと今感じました。日本の方でも、ストレートで大学に入るのは非常に難しいことだと思えます。中学2年生で日本に来て、いろいろな形で日本語を勉強したり、それから教科の勉強をしてきたと思うのですが、たくさんその後輩たちが世の中にいるのだと思います。日本に来た子どもたち、これから日本語を獲得していかなければならない子どもたち、日本で学習を積み重ねていかなければならない人たちにアドバイスのようなことがあれば、お聞かせ願います。

ていしゅんろん
鄭訓栄

私は良い先生を見つけることがとても大事だと思えます。私は日本人と一緒に授業を受けていても、実際授業についていけませんし、先生の話も早すぎてついていけません。途中で専門用語が出てきますので分からなくなる場合もあります。ですけど、放課後には先生のところに行って、分からないところを質問して答えてもらって、そこで先生もやさしいから、先生が好きになって、それでクラスの授業も好きになったので、授業を楽しんで勉強できるようになりました。そういういい印象がありますので、先生を見つけないといけません。もうひとつは日本人の友だちを作って日本の生活に慣れることも大事だと思えます。私は去年日本語検定1級に受かったのですが、どんな教科書を使ったのかと友だちに聞かれるのですが、私の場合は、西山先生と一緒に勉強した1年間以外に、何の日本語クラスにも通わないで、特に教科書は買っていません。ただ、友達と話して、日本のテレビ番組を見て、テレビの隣に今でも広辞苑を置いています。そこで分からない単語や日本語があれば引いています。最初、引いても忘れられると思いますが、2、3度引いた後、自然と覚えられます。2、3時間机の前に座って単語とか文法を丸暗記するよりも、楽しくて楽だと思えます。

なかむら
中村ノーマン

ありがとうございます。ここで会場からも声を聞きたいと思えます。1分程度で、できればお名前と所属を言っていただいた後に、質問をお願いしたいです。母語教室の運営をされているOさん、その経験から今日何か感じたことでもいいですので、一言お願いできますか？

かいじょう
会場A

今日は良い勉強させていただきましてありがとうございます。私は「ラックパーサイタイ」と言う団体で、タイにつながる子どもたちの母語支援、母語教室、それからそのお母さんたちに個人的に日本語を教えたりして、タイにつながる人たちとのつながりを持っています。今私が感じているのは、今日話もあった学校と生徒たちのつながりの他に、保護者と支援者、保護者と学校のつながりの他に、私たち地域のひとたちがもっと外国につながる子どもたちを受け入れる姿勢というか、そういう方向につながっていくといいなと思うんです。というのは、この夏休みにお母さんから相談を受けたのですが、『先生、学校からの宿題を家庭で丸付けをするように言われたけれども、私にはこの漢字が正しいのか分からない』と言うんですね。そう言ったところを例えば学校のPTAに保護者が参加して、そこで近所のお母さん、お友だちのお母さんとお友だちになっていけば、そのお母さんに丸付けを手伝ってもらったりできるんじゃないかなと思ったことがありました。もっともっと地域と外国籍の子どもたち、お母さんたちのつながりが深まればいいなと思えます。

なかむら
中村ノーマン

ありがとうございます。

しています。代表者ともう一人のコアスタッフはこの子はこのような方針でこういう希望をしているということ
ことを分かるように明示しておきます。その際には日本語学習であったり教科学習であったり、どのような
イベントがその子に待ち受けているかということをお願いしてお話しして、これはやるべき、やらないという小さな問題はなくなっていくのかなと思います。これすべてを通して必要なのかなと分
かるでしょうし、もしくはこれは必要ではないのかなという団体としての意識が出てくるのかなと思います。
また、さきほどおっしゃっていましたが、ネットワークづくりも本当に大切だと思います。私は私個人で
教室や教育委員会といった組織に所属している分、いろいろなことを知り得る機会が多いのですが、神奈川
の場合には、ME-netと言いまして高校の先生方が集まって作られている外国人の子どものための団体もあり
ます。そのようなところにも私は参加させていただいてなるべく敏腕の先生や行政、または交流協会といっ
たところに顔を出すようにしています。また担任の先生ともなるべくお話しできたらいいなと思い、そのよ
うな機会を作るようにして関わっていくことを考えています。本当に粘り強い活動が必要であると思ってい
ます。

なかむら
中村ノーマン

李さんも学校とのいろいろな関わりはありますよね。何かありますか？

りげんしょう
李原翔

東京のいろいろなボランティア団体やNPOの日本語教室に調査に行ったことがありますが、実際にはボラ
ンティア組織と学校との連携はとても難しいですね。ボランティアの方は余裕を持って支援なさっているの
ですが、先生は集団のなかで日本人の子どももたくさん抱えているし、外国人の子どもの言語は1
つや2つだけでなく、先生方も大変な思いもしています。ボランティア方の支援は先生方にとってもとても
必要です。先生方がカバーしきれない部分はボランティアの方に補っていただければ先生方にとってもすごく
助かるのですが、その間にコーディネーターというか、そういう経験のある人がいれば、もう少し支援しや
すいと思います。さきほどの宿題に関しては、実際に私も中学1年生と3年生の子どもがいますが、周りの
外国人の子どもたちを見ると、本当にこういうボランティアの方がそばで助けてくれれば、どんなに助かる
かと思います。是非先生たちも直接自ら積極的に関わったほうがいいと思います。

なかむら
中村ノーマン

今日のディスカッションを通じて、最後に一言いただきたいと思います。山野上さんからお願いします。

やまのうえ まい
山野上麻衣

このようなことに関わって、気が付いたらかなり長くなっているのですが、しっかりと理想を持つこ
とと、地に足をつけること、広い視野を持つこと、これらはすべてバランスが取れていなければ、この分野
は前に進んでいかないけないのではないかなと思っています。そういう意味で今日この機会にいろいろみなさん
とお話しができたし、時間は少なかったですがフロアの方々と共有でき、お会いできたのもよかったと思っ
ています。ありがとうございました。

にしやま ひさこ
西山日佐子

今日このような機会を与えていただきまして本当にありがたく思っております。外国につながる子ども
たちの支援というと、なかなかネットワークがない場合、孤立しがちな方も多いのではないかなと思っております。
「わかば」にもそのような方がよく話をしに来てくれます。個人でネットワークを持つというのはすごく大変
なことかもしれませんが、このような場でみなさんに話をさせていただいて、自分たちの活動とか考えに近
い方がそばにいるということを知っていただけるのではないかなと思っております。ありがとうございました。

りげんしょう
李原翔

ボランティア通訳としていろいろなところに関わってきましたが、最初は中国人のボランティア通訳をあまり見かけたことはなかったです。ここ数年、東京都と神奈川県の外国人高校進学ガイダンスで若者の中国人ボランティア通訳が増えてきました。お話を聞いてみると、やはり日本に来た最初のころ、いろいろ苦労して、たくさんの人に支えられて、大学や専門学校に入ることができたので日本に来て良かったとか、自分がこれまでに受けた支援にご恩返ししたいということです。ボランティアとしてたくさんの人を助けてあげたいとか、そういう話を聞きます。もっともっと沢山の外国人が日本に来て良かったな、自分は日本社会の一員として日本にも貢献したいとか、そのような思いを持ってくれればいいなと思います。本当にありがとうございました。

鄭訓栄

私はすごく先生や周りの人に恵まれていると思います。こんなに良い先生がいてくれて私の人生を変えたと言っても過言ではないと思います。多分、先生は忙しいことと思いますけど、本当に救われたとか、助かりましたので、僕みたいな他の外国の子もこういうチャンスがあれば是非助けてあげたいなと思います。ありがとうございます。

中村ノーマン

ありがとうございました。今日のフォーラムは母語を大切にすることとをまずみなさんに強くアピールさせていただきました。ディスカッションの中から強く出てきたのはネットワークづくり、人と人の関係という話です。実はこのあーすフェスタは「みんなでつくる多文化共生」ということを標語に挙げ、会場のあーすぶらざは多文化共生を推進する、県の重要な拠点になっています。今回のフェスタは子どもの希望や未来のことを考えるということで、できるだけ前向きに話をさせていただきましたが、改めて多文化共生とは何かということを見ると、鄭君の話に人生が変わるという話がありました。鄭君の人生は変わったのですが、先生の人生もきっと変わったんだろうなと思います。多文化共生というのは、外国人のことでなく、この地域ですべての人が一緒に暮らしていくということが目的であり、これは継続的にどうやって接していくか、きっと答えがない世界だと思います。答えのない世界で継続的にいろいろな取り組みを積み上げていくことはとても重要です。母語を大切にする方法の答えはないのですが一番大切なのは、この人のことを大事にしたい、この人と一緒に暮らしていきたいと考え、そこから考えなければ答えはきっと見えてこないということです。考えていくということを教育の場で実践していくことができれば、素晴らしいことだし、自分自身が母語を使えなかったら、せめて子どもたちに対しては「あーすぶらざの外国人教育相談に自分で電話してごらん。私に母語で言っても分からないけど、そこでは言語によっては母語で対応できるサービスがあるから聞いてごらん」というようなことから始められるのでは強く感じ、その思いでこのフォーラムを開催しました。そのあたりをまとめの言葉とさせていただきたいと思います。みなさん、長い間、ディスカッションにつきあってくださりましてありがとうございました。以上を持ちまして第2部を閉じさせていただいて司会のほうに戻したいと思います。

金載旺

パネラーのみなさん、ありがとうございました。本日のパネルディスカッションに私たちもいろいろと感じることがありました。私たちにも一言ずつ述べさせていただきたいと思います。私は民族学校で小学校から大学まで16年間民族教育を受けて育ちました。そんな私にとって今回のフォーラムは日本での外国籍児童ならびに外国人に対する政策や対策などの問題点などを改めて、また新しく知ることのできるいい機会となりました。なかでも言葉の壁、民族の壁などがいかに、そしていまだに日本社会の中で大きな問題になっているかということを感じることができました。これから私も日本に住む外国人として自分の国の言葉そして自分の国の言葉を大切にしていって、そしてそういう人たちをより一人でも多く仲間にしていきたい。そしてそういう仲間たちと一緒に日本社会にアピールしていきたい、そういうふうに思いました。

ちゃんへじゅ
張惠珠

私も金さんと同じく、朝鮮学校に通い、日本で育ったので日本語を母語とし、朝鮮語を母国語とし、学校で朝鮮語を学び両方を取得して今に至ります。その過程で私は自分らしく生きることの大切さを学んだと思いますし、そういう大切さを学ばせてくれた両親や周囲の人たちに本当に感謝しています。本日のフォーラムの中で鄭さんの話ですとか、外国にルーツを持つ学生さんの経験のなかで「日本語（自体）を学びたい」のではなくて「勉強がしたい」、この点を初めてみなさんに問いかけたと思います。私はこういった取り組みがまさに自分らしさを推奨する取り組みであったと思います。今回のあーすフェスタのテーマが「子どもたちに夢と希望を」というテーマなのですが、その「夢と希望」というのはやはり外国にルーツを持つ子どもたちにとっては「自分らしく生きられる」社会が見えてこそその希望だと私は痛感しています。私は、彼ら彼女らが自分らしく生きることの大切さ、それを誇りに思える、そういう社会を作れるように本日ご来場のみなさんとともに努力していければと思っています。私も日本に住む在日朝鮮人の一人として、日本で多文化共生を推進する一員として、これからも尽力していきたいと思っています。

きむじえわん
金載旺

それでは、以上を持ちまして外国籍県民フォーラム「外国につながりを持つ子どもたちの教育問題を考えるー母語を大切にしたい日本語教科支援を通じて」を終わりにしたいと思います。本日はどうもありがとうございました。パネラーのみなさん、どうもありがとうございました。

「外国籍県民フォーラムの要旨」

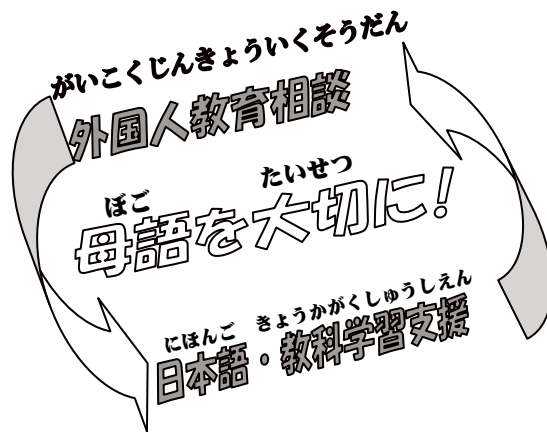
総括

- ① 母語を大切にされた教科・日本語支援は、外国人に向き合い考えることから手立てが見えてくる
- ② 教育の分野での支援は裾野が広く、さまざまな経験と情報が必要でボランティアができるものではない。財団法人かながわ国際交流財団の運営する「あーすぷらざ外国人教育相談」のような取り組みは非常に重要。

重要なポイント

- 多様な背景を持つ子どもたちについて。来日直後の子どもたちは、本国での社会的格差（地域性、経済力など）に加え、来日した時期や学力の個人差等の様々な問題を抱えている。日本語だけの問題でなく、日本でのライフスタイルや生活習慣の違いに戸惑い、どのように時間を過ごせばいいのかもわからない。日本の教育システムを経験していない保護者の教育に関する意識や情報認知度、家庭の事情も様々である。
- 公立学校の対応だけでは、外国につながりを持つ子どもたちに提供すべき教育環境を構築することができていない。本人も、保護者も不安があるため、学校に相談することなく、地域の支援を求めている
- 一週間に一度しかない日本語教室や学習支援でできることは少ない。そこで、できるだけ保護者と母語で子どもについての情報を得て、残りの6日間を家庭でどのように過ごすか、学校でどのような勉強をしているかを把握することで、その子の学習の道筋を立てることができる。
- 不就学の子どもたちが学校へ行かない理由は色々あり、単純に日本語ができないから行かないというだけのことではないことの方が圧倒的に多い。その背景にある色々な問題をどう考え、どう学校に入るかということに向けて、また学校に通い続けるということも含めてどのようにその子の人生、家族の人生を総合的に見ながら、関係の学校や教育委員会、必要に応じて福祉事務所と調整していくことも必要。
- その子どもに必要な支援は何なのか、日本語なのか教科学習なのか、教科学習をどのように教えればいいのか、そういう問題意識から、一人ひとりから始まる教育というところを目指す。
- 子どもと家庭が今どういう状況に置かれていて、これから先どういうところに向かっていきたいのか、そのために今何が必要なのか、ということらを総合的に支援していきようなソーシャルワークの視点をもつ。
- 定期テストなどを翻訳するか通訳するかというのは学校の判断によるが、「できるかどうか」という問いよりは「やろう」と思うかどうか。何が平等なのか等を考えない限り、通訳を入れられるかということよりも、根本的に日本語が分からない子どもの何を見て評価をするのか、どのように評価をするのかということを考えていく、その時にできる限り評価をしてあげたいと思ったら、手立ては出てくるはず。
- 対訳された情報や翻訳教材や辞書をどう使うかということを含めて、出発点としてその子の母語をどうとらえるかという視点をまず持つことから始めるべきだ。
- 外国につながりを持つ子どもたちの教育相談は非常に専門性の高いもの。多岐に渡る情報と、ネットワークが必要である。またしっかり保護者と向き合い、コミュニケーションをとる心も大事である。
- 家庭は子どもにとっては何よりも大切な居場所であり、保護者の理解が大切。そこで、保護者への教育支援活動も必要になってくる。まずは親の視点を理解し、親の関係性（親子の相互理解、親のネットワークづくり）を支援することが必要。そして、子どもの現状と親としての役割の理解が必要。
- 子どもたちには、日本語を勉強する意味や、いくら勉強してもなかなかうまくできない焦りが出てくるときに、日本で日本語を勉強するプロセスや方法論はどのようなものがあるかなど、子どもたちに理解してもらう必要がある。
- 子どもたちの進路支援に関しては、勉強だけではなく、人間関係で孤独感を感じたり、勉強がうまくいかず挫折感を感じたり、子どもたちの適応範囲を理解するのは母語でないとなかなか難しい。こういうところは少しでも母語で入れれば伝わりやすい。

- 子どもたちのモチベーションを高めることも考えながら教育支援をすることも大切。またやさしくするだけでは不十分で、必要な厳しさとほどほどの支援、何でもやってあげるのではなくて子どもたちが主体的に自ら勉強していけるように、支援は見守りながら支援していくべき。
- 財団法人かながわ国際交流財団が運営する「あーすぶらざ外国人教育相談」では、日本人の専門スタッフと母語のできるサポーター及び財団の持つ支援力のチームワークで一緒に支援を行っているところが素晴らしい。行政や学校といった関連機関と連携して最善のサポートを提供している。母語による相談の特徴は、相談に来る側にとっては、聞きたいこと、言いたいことを安心して母語で話せ、またいろいろな情報を正確に理解できることである。それにより、継続的な相談につながる。特に教育に関する情報を週末にアクセスできるという点はポイントが大きい。

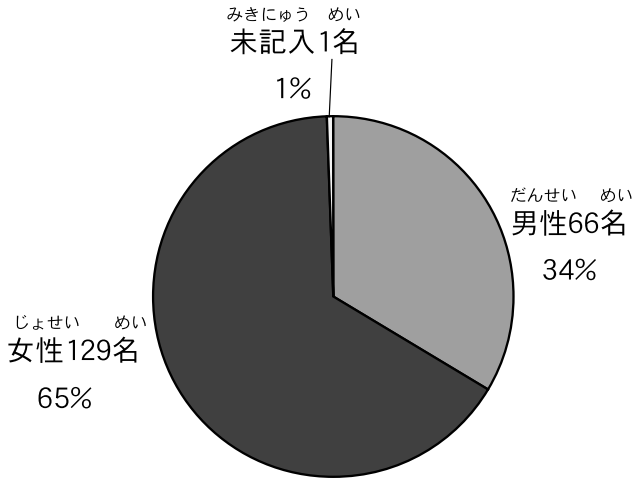


4. 来場者アンケートの結果

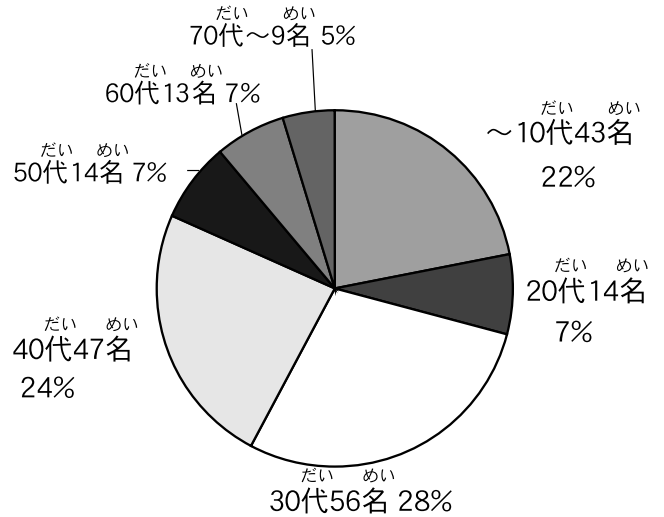
(回答者数：196名)

(1) 回答者の属性

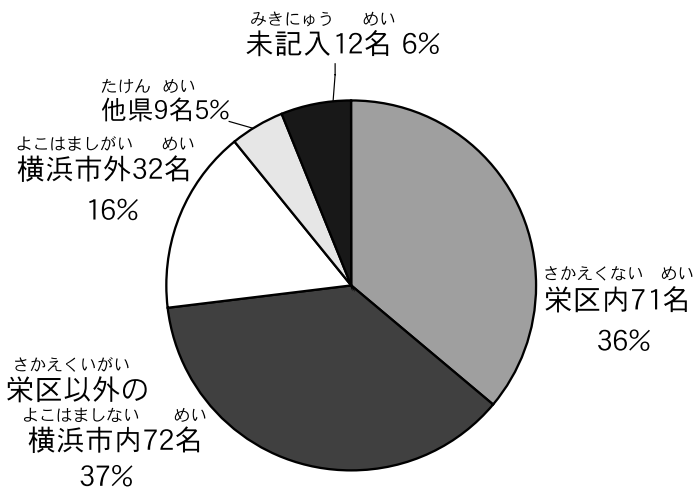
性別



年齢



住所



国籍

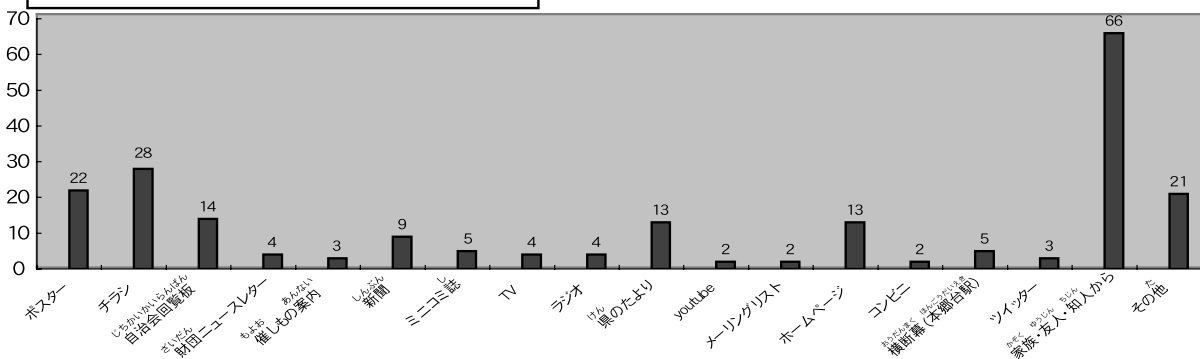
国籍	人数 (単位：名)
日本	175
韓国	2
ブラジル	1
フィリピン	1
中国	1
未記入	15

出身

出身	人数 (単位：名)
日本	140
韓国	2
ブラジル	1
フィリピン	1
アメリカ	1
中国	1
未記入	47

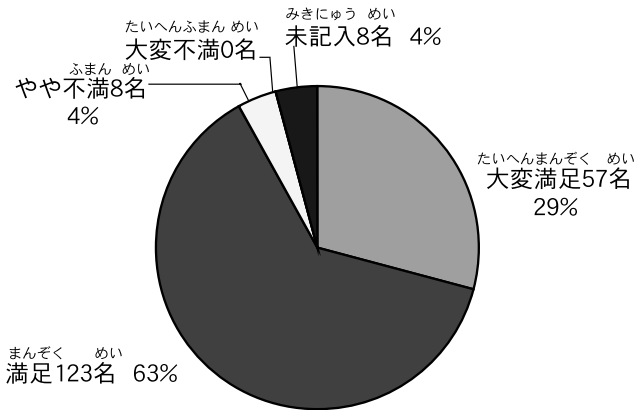
(2) 広報の結果

このイベントは何を見て知りましたか？

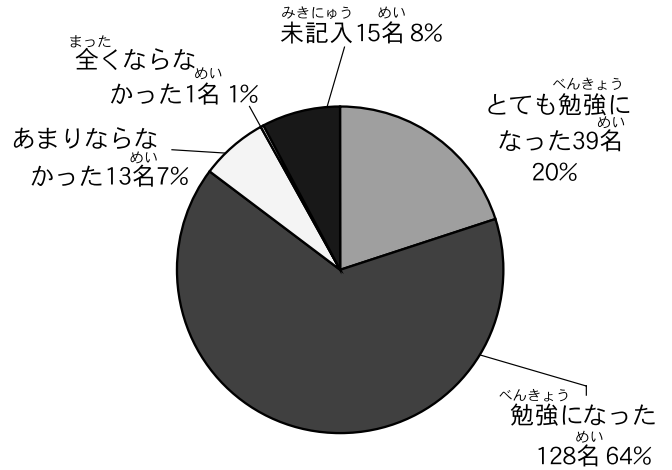


(3) 満足度

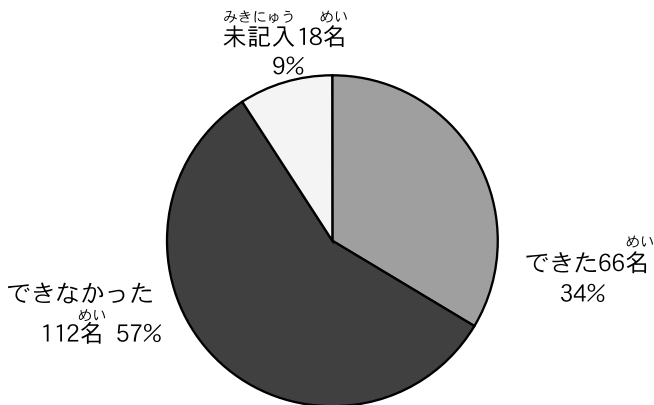
まんぞくど
満足度



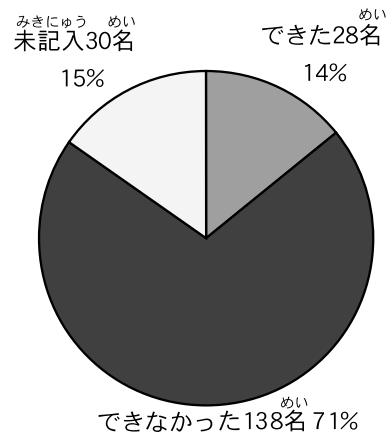
べんきょう
勉強になりましたか?



ちがくくにひと はなし
違う国の人と話ができましたか?



あたらしとも
新しい友だちができましたか?



とくよ なに
特に良かったプログラムは何ですか?

外国籍県民フォーラム	4
シネマコレクション	1
世界のお茶	3
世界のものづくり	3
メキシカンダンス	2
世界の遊び場	2
民族舞踊「情熱のサンスクリティ」	10
民族音楽「響き渡れラグラグ」	7
出合いのエスコーラ	2
子どもたちのヒップホップダンス	1

かながわと世界のともだち展	7
写真展「世界の子ども笑顔」	2
JICA特別展	1
世界屋台村	11
ふあふあ	6
クイズラリー	4
ワールドバザール	3

じゆう いけん かんそう か
自由にご意見、ご感想をお書きください。

	こうていき いけん (肯定的意見)
1	今年は暑い時期の開催で、特に外でなさっていた方は暑い中お疲れさまでした。とても楽しくてもっといろいろ回って見たかったです。
2	各国の女性衣装はひとつの『ファッション』として注目した。サウジアラビアの衣装は締め付けがなく、酷暑にはよかったのではないかと。特に映像ホールで見た『まとう』は社会性があり、フェスタだけで終わらせない工夫があった。
3	今回時間がなく、ワークショップ等に参加できなかったのですが、来年はじっくり参加してみたいと思った。メラニ&ウクレレのステージは良かった。
4	暑い中、ボランティアの方々やスタッフの方々、大変だったと思います。楽しい1日を過ごせました。ありがとうございます。
5	いろいろな料理があって楽しかった。
6	子どもも来ました。毎年、ふあふあを楽しみにしています。ワークショップの世界のあそびも楽しんでいました。
7	カービングの体験をさせていただきました。難しかったけど、カブが素敵な花になって感動しました。楽しいイベントでした。ありがとうございました。
8	食事とてもおいしく楽しかったです。また来年来たいです。
9	とても親切に教えていただき、うれしかったです。(ポジャギ作り)
10	初めて来ましたが、規模が大きくて興味深いものがたくさんありました。子供達がとても楽しんでいて「また来たい!」と言っていました。次回はちゃんと時間をとって午前中から参加したいです。
11	まだ少ししか見ていないのですが、他の文化の子ども達の絵はどれも感性豊かに描けていて、少しずつ国の特性が出ているように思いました。
12	初めて参加しましたが、いろいろな催しがあって、楽しく過ごしました。時間のたつのがすごく早く感じました。『かながわと世界とともだち展』のクラフトが楽しかったです。ボランティアの方ともお話できてよかったです。
13	子どもがもう少し大きくなったら、また連れてきたいと思いました。
14	海外のことをぜんぜん知らないのですが、目で見て、話を聞いて知ることができました。
15	フェスタをきっかけに一人一人が異文化、違う価値観などを寛容に受け入れ互いに尊敬しあえるように勉強していきたいと思えます。
16	親子で参加できるイベントがあって家族で楽しめてよかったです。
17	メッセージが届くというシステムがすごく良いと思いました。
18	日本の資源がいかに少ないか、データでよく分かりました。食べ物を粗末にできないと痛感しました。
19	建物の機能を十分に生かした内容です。ホールの企画、外のものも運営していくのは大変と思いますが、支障もなくとてもにぎわっていました。
20	身近に外国人がいない方たちにとって外国との距離を縮めることのできる良いチャンスだと思います。

2 1	あーすぷらざの近くに住んでいるので、毎年見学しています。子どもが成長してからは私一人です。ステージ・民族音楽・民族舞踊を鑑賞させていただきます。11日(土)のアイランドステージでの衣装や歌の発表は浜銀の隣の公団の自宅 15F からよく見え、よく聴くことができました。
2 2	来てよかった。中国の女性の踊りがきれいでした。タイ王国の屋台がおいしかった。フィリピンのギタリストが良かったです。また来たいです。
2 3	コンサート、ダンスなど自由に参加できるのがとても良いと思います。食べものも身近に外国を感じるのに良いと思います。
2 4	クイズラリーがとても面白かったです。しゃべり場に参加しました。これからの日本にはコミュニケーションが大切。
2 5	楽しかった。おいしかった。
2 6	もっと60代からお年寄りが多いかと思った。子ども連れが多かった。雨でも中止しなくてもいいので良いところです。
2 7	人が大勢で良かった。
2 8	食べものを入れていたトレーがシートをはがしてすぐに分別できたのが良かったと思います。
2 9	異文化の人たちとふれあう機会というのは普段の生活ではないことなので、刺激的だった。日本という狭いところだけで満足せずにもっと世界のほうにも目を向けなければいけないと思った。
3 0	インカコーラにやられました。
3 1	いろいろなものがもらえて良かった。
3 2	スタンプラリー、ゲームがいろいろ楽しめて良かったです。
3 3	色々な国の食べものや文化に触れることができるととても楽しく過ごせました。
3 4	おそじかん(12日のPM3時)に来たので、十分に楽しめなかったが、それなりにいろいろなものが見物出来て良かった。でも他県の間にはちょっと遠かった。品川から1時間は少々きつい。
3 5	とても楽しかったです。
3 6	買い物やお話ができるととても楽しかったです。
3 7	催しものの場所が分かりやすかった。クイズラリーのヒントの場所が難しかった。
3 8	とても楽しかった。友だちと仲良くできて良かった。
3 9	いい経験になった。
4 0	屋外の屋台やバザールの上質紙の案内(地図入り)は親切で、希望の屋台やバザールにすぐに行け、他のお店も余裕をもって回れた(この用紙を2日間使えた)。ステージの予定(案内)も上質紙の印刷で便利だった。
4 1	多文化共生の映画上映は自分ではなかなか見ないから良いと思った。
4 2	ちびっこも楽しんでいて、たくさんの国の人たちがいて、すてきな空間でした。
4 3	クイズラリーやきもの・チマチョゴリ作りが楽しかったです。
4 4	色々な国籍の出し物があってとても楽しかったです。
4 5	最高!!

4 6	暑い ^{あつ} な ^な か ^か 、大変 ^{たいへん} ですね。屋台 ^{やたい} がメイン ^{めいん} になっている ^な ような ^や 気が ^き しますが、それはそれで文化 ^{ぶんか} 体験 ^{たいけん} として ^し 良い ^よ でしょう。
4 7	クイズ ^{クイズ} ラリー ^{ラリー} が楽し ^{たの} かった。
4 8	ピエロ ^{ピエロ} と友 ^{とも} だち ^{だち} になった。
4 9	中国 ^{ちゅうごく} ゴマ ^{ごま} や竹 ^{たけ} のダンス ^{ダンス} は子 ^こ ども ^{ども} がすごく喜 ^{よろこ} んでいま ^{いま} した。2日 ^{にち} 間 ^{かん} とも参 ^{さん} 加 ^か していま ^{いま} した。
5 0	世界 ^{せかい} の遊 ^{あそ} び ^び がおも ^{おも} しろ ^{しろ} かった ^{です} 。
5 1	いろ ^{いろ} いろ ^{いろ} な ^な 国 ^{くに} の遊 ^{あそ} び ^び が体 ^{たい} 験 ^{けん} でき ^{でき} て楽 ^{たの} しかった。
5 2	子 ^こ ども ^{ども} が喜 ^{よろこ} んで遊 ^{あそ} べ ^べ た。今 ^{いま} まであま ^{あま} り ^り や ^や った ^た こと ^{こと} のな ^な い ^い 遊 ^{あそ} び ^び で ^で した。と ^と ても ^も 有 ^{ゆう} 意 ^い 義 ^ぎ な ^な イ ^い ベ ^べ ン ^ん ト ^と だ ^だ と ^と おも ^{おも} う。
5 3	初 ^{はじ} め ^め て ^て 来 ^き まし ^{まし} た ^た が、来 ^{らい} 年 ^{ねん} も来 ^き たい ^{たい} と思 ^{おも} い ^い ます。こ ^こ の ^の 機 ^き 会 ^{かい} を ^を 通 ^{つう} じ ^じ て ^て 他 ^た 国 ^{こく} の ^の 人 ^{ひと} 々 ^々 や ^や 生 ^{せい} 活 ^{かつ} 等 ^{とう} が ^が 分 ^わ かり ^り まし ^{まし} た。
5 4	毎 ^{まい} 年 ^{ねん} 楽 ^{たの} しみ ^{しみ} に ^に 来 ^き ていま ^{いま} す。

	ようぼう ていあん (要望・提案)
1	も ^も っ ^っ と ^と 色 ^{いろ} 々 ^々 と ^と あ ^あ れ ^れ ば ^ば も ^も っ ^っ と ^と い ^い い ^い です ^す ね。
2	ア ^ア ン ^ン ケ ^ケ ー ^ー ト ^ト が ^が 長 ^{なが} ず ^ず ぎ ^ぎ る ^る の ^の で ^で 、来 ^{らい} 年 ^{ねん} か ^か ら ^ら は ^は 短 ^{みじ} く ^く し ^し て ^て は ^は い ^い か ^か が ^が で ^で し ^し ょう ^う か ^か ？
3	屋 ^や 台 ^{たい} を ^を 毎 ^{まい} 年 ^{ねん} 楽 ^{たの} しみ ^{しみ} に ^に し ^し て ^て いま ^{いま} す。9月 ^{がつ} は ^は ま ^ま だ ^だ 暑 ^{あつ} い ^い の ^の で ^で 、5月 ^{がつ} 実 ^{じつ} 施 ^し の ^の ほう ^{ほう} が ^が 良 ^よ か ^か った ^た の ^の で ^で は ^は ？
4	1歳 ^{さい} の ^の 子 ^こ ども ^{ども} が ^が い ^い る ^る の ^の で ^で 、子 ^こ ども ^{ども} 向 ^む け ^け の ^の 屋 ^や 台 ^{たい} メ ^メ ニ ^ニ ュー ^{ュー} も ^も あ ^あ る ^る と ^と あ ^あ り ^り が ^が た ^た い ^い です。
5	イ ^イ ベ ^ベ ン ^ん ト ^ト の ^の PR ^{PR} 不 ^ぶ 足 ^{そく} で ^で あ ^あ る ^る 。こ ^こ の ^の イ ^い ベ ^べ ン ^ん ト ^ト が ^が あ ^あ る ^る こ ^こ と ^と を ^を 栄 ^{さか} 区 ^{えく} の ^の 人 ^{ひと} 々 ^々 に ^に も ^も っ ^っ と ^と PR ^{PR} す ^す べ ^べ き ^き で ^で あ ^あ る ^る 。
6	絵 ^え の ^の メ ^め ッ ^っ セ ^せ ー ^ー ジ ^ジ を ^を 書 ^か く ^く と ^と 、書 ^か いた ^{いた} 本 ^{ほん} 人 ^{にん} に ^に メ ^め ッ ^っ セ ^せ ー ^ー ジ ^ジ が ^が 届 ^{とど} く ^く の ^の は ^は う ^う れ ^れ い ^い い ^い け ^け ど ^ど 、相 ^あ 手 ^て か ^か ら ^ら も ^も 自 ^じ 分 ^{ぶん} あ ^あ て ^て に ^に メ ^め ッ ^っ セ ^せ ー ^ー ジ ^ジ が ^が 欲 ^ほ しい ^い と ^と 思 ^{おも} った。
7	近 ^{きん} 所 ^{じょ} に ^に 住 ^す んで ^で い ^い る ^る の ^の に ^に 、情 ^{じょう} 報 ^{ほう} (^か い ^{かい} さ ^{さい} い ^び) ^が 分 ^わ かり ^り ま ^ま せ ^せ ん ^ん で ^で した。回 ^{かい} 覧 ^{らん} 板 ^{ばん} に ^に 入 ^い れ ^れ て ^て く ^く れ ^れ る ^る と ^と う ^う れ ^れ い ^い い ^い です。14:00開 ^{かい} 始 ^し の ^の プ ^ぷ ロ ^ろ グ ^ぐ ラ ^ら ム ^ム が ^が 多 ^{おほ} く ^く 、時 ^じ 間 ^{かん} が ^が ず ^ず れ ^れ て ^て い ^い る ^る と ^と う ^う れ ^れ い ^い い ^い です。
8	来 ^{らい} 年 ^{ねん} も ^も や ^や っ ^っ て ^て ほ ^ほ しい。
9	異 ^い なる ^{なる} 文 ^{ぶん} 化 ^か の ^の 踊 ^{おど} り ^り 、遊 ^{あそ} び ^び 等 ^{とう} を ^を 体 ^{たい} 験 ^{けん} でき ^{でき} る ^る が ^が 、そ ^そ れ ^れ だ ^だ と ^と 「あ ^あ ー ^ー 、楽 ^{たの} し ^し か ^か った ^た ね。」で ^で 終 ^お わ ^わ っ ^っ て ^て し ^し ま ^ま う ^う と ^と 思 ^{おも} う。も ^も っ ^っ と ^と 国 ^{くに} ど ^ど う ^う し ^し の ^の 問 ^{もん} 題 ^{だい} 点 ^{てん} と ^と か ^か 、食 ^た べ ^べ ら ^ら れ ^れ な ^な い ^い 人 ^{ひと} が ^が い ^い る ^る 国 ^{くに} 、地 ^ち 球 ^{きゅう} の ^の 温 ^{おん} 暖 ^{なん} 化 ^か な ^な ど ^ど に ^に つ ^つ い ^い て ^て の ^の ブ ^ぶ ー ^ー ス ^ス や ^や 体 ^{たい} 験 ^{けん} の ^の 場 ^ば が ^が あ ^あ る ^る と ^と 良 ^よ い ^い と ^と 思 ^{おも} う。
10	『世 ^せ 界 ^{かい} 屋 ^や 台 ^{たい} 村 ^{むら} 』と ^と 『飲 ^{いん} 食 ^{しょく} コ ^こ ー ^ー ナ ^な ー』の ^の チ ^ち ラ ^ら シ ^し が ^が ま ^ま ぎ ^ぎ ら ^ら わ ^わ い ^い し ^し い ^い です。屋 ^や 台 ^{たい} 番 ^{ばん} 号 ^{ごう} の ^の 整 ^{せい} 合 ^{ごう} 性 ^{せい} が ^が と ^と れ ^れ て ^て い ^い な ^な く ^く て ^て 、見 ^み づ ^づ ら ^ら い ^い です。1種 ^{しゅ} 類 ^{るい} に ^に し ^し ぼ ^ぼ る ^る か ^か 、も ^も う ^う 少 ^{すこ} し ^し 分 ^わ かり ^り や ^や す ^す く ^く し ^し て ^て い ^い た ^た だ ^だ け ^け と ^と う ^う れ ^れ い ^い い ^い です。紙 ^{かみ} も ^も 印 ^{いん} 刷 ^{さつ} 代 ^{だい} も ^も 抑 ^{おさ} え ^え ら ^ら れ ^れ て ^て エ ^え コ ^こ で ^で は ^は な ^な い ^い で ^で し ^し ょう ^う か ^か ？
11	水 ^{みず} の ^の 広 ^{ひろ} 場 ^ば に ^に 飲 ^{いん} 食 ^{しょく} コ ^こ ー ^ー ナ ^な ー(と ^と 屋 ^や 台 ^{たい}) ^が あ ^あ る ^る の ^の を ^を 知 ^し ら ^ら な ^な か ^か った(ず ^ず っ ^っ と ^と 参 ^{さん} 加 ^か ・遊 ^{あそ} び ^び に ^に 来 ^き て ^て い ^い る ^る の ^の に ^に)。も ^も う ^う 少 ^{すこ} し ^し 誘 ^{ゆう} 導 ^{どう} 板 ^{ばん} の ^の よ ^よ う ^う な ^な も ^も の ^の を ^を 作 ^{つく} った ^た ほう ^{ほう} が ^が よ ^よ い ^い の ^の で ^で は ^は ？
12	去 ^{きょ} 年 ^{ねん} の ^の ほう ^{ほう} が ^が す ^す ご ^ご く ^く 楽 ^{たの} し ^し か ^か った ^た です。秋 ^{あき} よ ^よ り ^り も ^も 春 ^{はる} の ^の ほう ^{ほう} が ^が 良 ^よ い ^い と ^と 思 ^{おも} い ^い ま ^ま した。そ ^そ ん ^ん な ^な に ^に 暑 ^{あつ} く ^く な ^な い ^い か ^か ら ^ら 。
13	も ^も う ^う 少 ^{すこ} し ^し 涼 ^{すず} しい ^い 時 ^じ 期 ^き だ ^だ と ^と 屋 ^{おく} 外 ^{がい} で ^で 楽 ^{たの} し ^し め ^め た ^た し ^し 、食 ^{しょく} 事 ^じ も ^も 進 ^{すす} んだ ^た と ^と 思 ^{おも} い ^い ます。

1 4	がいこくせきけんみん げんば きょうしよくいん ぎょうせい たんとしや き ほ 外国籍県民フォーラムに現場の教職員や行政の担当者に来て欲しい。
1 5	きよねん がつ きこう よ おも 去年の5月のほうが気候は良かったかなと思います。
1 6	がんば 頑張ってください！

	ひていてき いけん (否定的な意見)
1	HP を見ても具体的なイベント内容やどんな屋台がでるのが分からず、イメージしにくかった。
2	屋台がかなり混んでいて、子連れだと買えなかった。
3	スタンプラリーが大変まどろっこしかった。その割に景品がよくないし、もっと簡単にしてほしい。
4	映画『まとう』を見たが、画面が縦長になっていて変に思った。
5	ケバブのソースがたれた。
6	暑いです。
7	暑いし、日陰があまりない。
8	外国の飲食店はおいしかったけど、すこし高いと思った。
9	いろいろな国の食べものが食べられて良かったですが、暑くて外のお店を十分に見られなかったのが残念です。
1 0	料理が高かったです。

5. 企画委員会名簿

あーすフェスタかながわ 2010 に携わった企画委員を、グループごとに紹介します。
(☆印はグループ長です。)(2010年9月12日現在)

●企画委員長等

やくしやく 役職	なまえ 名前	しよぞくだんたいとう 所属団体等
いいんちよう 委員長	そさふあん 徐史晃	ざいにつぼんだいかんみんこくせいねんかい 在日本大韓民国青年会
ふくいんちよう 副委員長	こんりよんずん 孔連順	かながわちようせんがくえん 神奈川朝鮮学園オモニ会連絡会

●ステージグループ

なまえ 名前	しよぞくだんたいとう 所属団体等	なまえ 名前	しよぞくだんたいとう 所属団体等
☆ふじはら なおや ☆富士原 直也	さかえくみんぶんか 栄区民文化センター (リリース)	ぼくちえず 朴載守	ざいにつぼんちようせんせいねんどうめい 在日本朝鮮青年同盟 かながわけんほんぶ 神奈川県本部
あまの 天野 もえぎ		たかはし しずお 高橋 鎮雄	こうほくこくさいこうりゅう 港北国際交流ラウンジ
エソダ・バスネット		はせがわ あみ 長谷川 亜美	ぶよう バリ舞踊バスンダリ
おんようけん 温耀権	よこはまきょうそうかい 横浜華僑総会	おぎむら てつろう 荻村 哲朗	ざい (財)かながわ国際交流財団
きむよんどつ 金勇徳	ざいにつぼんちようせんせいねんどうめい 在日本朝鮮青年同盟 かながわけんほんぶ 神奈川県本部		

●担当プログラム等

学校ステージ「出会いのエスコーラ」、民族音楽「響き渡れラグラグ」、民族舞踊「情熱のサンスクリティ」

●ワークショップグループ

なまえ 名前	しよぞくだんたいとう 所属団体等	なまえ 名前	しよぞくだんたいとう 所属団体等
☆フレディ・アルミホス		みさわ のりこ 三沢 範子	THE アート・プロジェクト
こいずみ ゆきこ 小泉 由紀子	きこくせんもんかかれんらくかい JECK (JICA 帰国専門家連絡会)	りきよんさ 李敬史	よこはましりつしょうがっこう 横浜市立小学校
いくさ まさ子 井草 まさ子	たぶんかフリースクールよこはま	ワスナニ モニカ 孝子	マジカルチャイルドクラブ
こにし えりこ 小西 永里子	ざい やまとしこくさいかきょうかい (財)大和市国際化協会	みつだ ともこ 三津田 知子	ざい (財)かながわ国際交流財団
はせがわ まこと 長谷川 真	ラテンアメリカ青少年の会		

●担当プログラム等

チャランゴの名手によるラテンアメリカ音楽体験、ラティーノダンスをディスコで、癒しのバリ舞踊、メキシカンダンスを踊ろう、あそびば、世界のお茶、絵本の読み聞かせ&色で遊ぼう、しゃべりば、世界のものづくり

こうりゅう てんじ
●交流・展示グループ

なまえ 名前	しよぞくだんたいとう 所属団体等	なまえ 名前	しよぞくだんたいとう 所属団体等
おざわ ひろか ☆小澤 洋香	よこはまかきょうそうかい 横浜華僑総会	たがわ ともえ 田川 智恵	がくせい 学生
いわたて さち 岩楯 幸	こくさいこうりゅう ラポ国際交流センター	ほうのき りな 朴木 里奈	がくせい 学生
くらふじ むつこ 倉藤 睦子	こくさいこうりゅう ラポ国際交流センター	まるたに しづ こ 丸谷 士都子	とくかつ ちきゅう き (特活)地球の木
かわた けいこ 川田 慶子	せいかつ きょうどうくみあい 生活協同組合コープかながわ	かわぐち ひでたか 川口 秀隆	かながわけんこくさいか 神奈川県国際課
きむてす 金泰朱	ざいにつぼんちようせんせいねんどうめいかながわけんほんぶ 在日本朝鮮青年同盟神奈川県本部	きゅうい なみ こ 休井 菜実子	かながわけんこくさいか 神奈川県国際課
きむりえ 金理恵	ざいにつぼんちようせんせいねんどうめいかながわけんほんぶ 在日本朝鮮青年同盟神奈川県本部	ふじわら としお 藤原 敏雄	ざい こくさいこうりゅうざいだん (財)かながわ国際交流財団
たけだ るい 武田 留生			

たんとう
担当プログラム等

かながわと世界のともだち展、写真展「世界の子どもの笑顔」、かながわのともだち都市、JICA
横浜特別企画「どうなっているの？世界と日本—私たちの生活からわかる世界とのつながり」

●フォーラムグループ

なまえ 名前	しよぞくだんたいとう 所属団体等	なまえ 名前	しよぞくだんたいとう 所属団体等
なかむら ☆中村 ノーマン	たぶんかかつどうれんらくきょうざikai 多文化活動連絡協議会	ちゃんへじゆ 張恵珠	ざいにつぼんちようせんせいねんどうめいかながわけんほんぶ 在日本朝鮮青年同盟神奈川県本部
こんりよんすん 孔連順	かながわちようせんがくえん 神奈川県朝鮮学園オモニ会連絡会	かとう かよ 加藤 佳代	あいすぷらざいこくじんきょういくそうだん あーすぷらざい外国人教育相談
かねこ えみ こ 金子 恵美子	えいが ちきゅう 「シネマアース」～映画でつなぐ、地球のこどもたち～	すまたまき 須磨 珠樹	ざい こくさいこうりゅうざいだん (財)かながわ国際交流財団
きむじえわん 金載旺	ざいにつぼんちようせんせいねんどうめいかながわけんほんぶ 在日本朝鮮青年同盟神奈川県本部		

たんとう
担当プログラム等

外国籍民フォーラム「外国につながるを持つ子ども達の教育問題を考える～母語を大切にしたい日本語・
教科学習支援を通じて～」、シネマコレクション

●屋外グループ

なまえ 名前	しよぞくだんたいとう 所属団体等	なまえ 名前	しよぞくだんたいとう 所属団体等
きむちよふあ ☆金照華	ざいにつぼんだいかんみんこくせいねんかい 在日本大韓民国青年会 かながわけんちほうほんぶ 神奈川県地方本部	おんゆう 温悠	よこはまかきょうそうかい 横浜華僑総会
ばくえり 朴愛梨	ざいにつぼんだいかんみんこくせいねんかい 在日本大韓民国青年会 かながわけんちほうほんぶ 神奈川県地方本部	しまだ せいこ 嶋田 聖子	こすが やれんごうちようないかいじちかい 小菅ヶ谷連合町内会自治会
いさんちよる 李相哲	とっかつ みんだんこくさいきょうりよく (特活) 民団国際協力センター	のざき まきこ 野崎 牧子	こすが やれんごうちようないかいじちかい 小菅ヶ谷連合町内会自治会
は ぼんへ 河芳恵	とっかつ みんだんこくさいきょうりよく (特活) 民団国際協力センター	とみもと じゆんこ 富本 潤子	ざい こくさいこうりゅうざいだん (財)かながわ国際交流財団
きむひよの 金玄虎	ざいにつぼんちようせんせいねんどうめいかながわけんほんぶ 在日本朝鮮青年同盟神奈川県本部	むらやま けいこ 村山 圭子	ざい こくさいこうりゅうざいだん (財)かながわ国際交流財団
ばくよんじゆん 朴勇俊	ざいにつぼんちようせんせいねんどうめいかながわけんほんぶ 在日本朝鮮青年同盟神奈川県本部		

たんとう
担当プログラム等

世界屋台村、ワールド・バザール、アイランドステージ&生ラジオ、クイズラリー、ふあふあ、大道芸、
バルーンアート隊、中国の太鼓演奏

6. 開催経過

あーすフェスタかながわ 2010 に係る実行委員会等の開催経過です。

1 実行委員会

- 第1回
- 日 時：2009年10月20日(火) 10:00～11:00
- 場 所：自治総合研究センター(現：職員キャリア開発支援センター)103 研修室
- 内 容：・あーすフェスタかながわ 2010 実行委員会設置要領について
 ・実行委員会役員選出について
 ・あーすフェスタかながわ 2010 の実施概要について
 ・あーすフェスタかながわ 2010 実施予算案について
- 第3回
- 日 時：2010年9月2日(木) 15:00～16:00
- 場 所：あーすぷらざ1階大・中会議室
- 内 容：・あーすフェスタかながわ 2010 設置要領(案)について
 ・あーすフェスタかながわ 2010 最終予算(案)について
 ・あーすフェスタかながわ 2010 最終企画(案)について

※ 第2回は書面による表決(人事異動による実行委員会副委員長の選出等)

2 企画委員会

- 第1回
- 日 時：2009年10月29日(木) 19:00～20:30
- 場 所：横浜華僑婦女会館
- 内 容：・関係組織及び企画委員会設置までの流れについて
 ・あーすフェスタかながわ 2010 概要、スケジュールについて
 ・企画の組み立てについて
 ・フリーディスカッション
- 第2回
- 日 時：2009年11月26日(木) 19:00～20:30
- 場 所：あーすぷらざ大・中会議室
- 内 容：・あーすフェスタかながわ 2010 について
- 第3回
- 日 時：2010年1月20日(水) 19:00～21:00
- 場 所：在日本朝鮮人総聯合会神奈川本部
- 内 容：・企画委員長、副委員長の選出
 ・サブテーマの要否
 ・第4回企画委員会について
- 第4回
- 日 時：2010年2月23日(火) 19:00～21:00
- 場 所：在日本大韓民国民団神奈川地方本部
- 内 容：・副委員長の選出
 ・フェスタ 2010 企画について
- 第5回
- 日 時：2010年3月24日(水) 19:00～21:00

ば しょ よこはまかきょうふじょかいかん
場 所：横浜華僑婦女会館
ない よう きかくあん
内 容：・フェスタ 2010 企画案について

だい かい にち じ ねん がつ にち か
第 6 回 日 時：2010 年 4 月 27 日（火） 19：00～21：00
ば しょ ざいにっぽんちようせんじんそうれんごうかいかながわけんほんぶ
場 所：在日本朝鮮人総聯合会神奈川県本部
ない よう だい かい かいぎ ほうこく
内 容：・第 1 回グループ会議の報告
・課題の共有、全体協議

だい かい にち じ ねん がつ いたち か
第 7 回 日 時：2010 年 6 月 1 日（火） 19：00～21：00
ば しょ ざいにっぽんだいかんみんこくみんだんかながわけんちほうほんぶ
場 所：在日本大韓国民団神奈川県地方本部
ない よう かく しんちよくじょうきょうほうこく ぜんたいきょうぎ
内 容：・各グループ進捗状況報告、全体協議
・各グループ協議
・今後の検討事項の確認

だい かい にち じ ねん がつ くい か か
第 8 回 日 時：2010 年 7 月 6 日（火） 19：00～21：00
ば しょ ざいにっぽんちようせんじんそうれんごうかいかながわけんほんぶ
場 所：在日本朝鮮人総聯合会神奈川県本部
ない よう かく しんちよくじょうきょうほうこく ぜんたいきょうぎ
内 容：・各グループ進捗状況報告、全体協議
・各グループ協議
・今後の検討事項の確認

だい かい にち じ ねん がつ にち すい
第 9 回 日 時：2010 年 8 月 18 日（水） 19：00～21：00
かい じょう よこはまかきょうふじょかいかん
会 場：横浜華僑婦女会館
ない よう かく しんちよくじょうきょうほうこく ぜんたいきょうぎ
内 容：・各グループ進捗状況報告／全体協議
・各グループ協議及び報告

だい かい にち じ ねん がつ ふつ か もく
第 10 回 日 時：2010 年 9 月 2 日（木） 19：00～21：00
かい じょう ざいにっぽんだいかんみんこくみんだんかながわけんちほうほんぶ
会 場：在日本大韓国民団神奈川県地方本部
ない よう かく どうじつ む ほうこく
内 容：・各グループ当日に向けての報告
・全体での確認事項について
・懇親会

だい かい にち じ ねん がつ にち もく
第 11 回 日 時：2010 年 10 月 21 日（木） 19：00～20：30
かい じょう ざいにっぽんちようせんじんそうれんごうかいかながわけんほんぶ
会 場：在日本朝鮮人総聯合会神奈川県本部
ない よう
内 容：・フェスタ 2010 のふりかえり

3 かく 各グループ

(1) ステージグループ “スニブダヤ”

だい かい にち じ ねん がつ いたち か
第 1 回 日 時：2010 年 6 月 1 日（火） 19：00～21：00
ば しょ けんみん かい
場 所：かながわ県民センター 9 階フリースペース
ない よう じこしょうかい
内 容：・自己紹介
・部会名について
・部会長の選出
・企画内容について

こんご すず かた
・今後の進め方について

- だい かい にち じ ねん がつ にち げつ
第2回 日 時：2010年6月21日（月） 19：00～21：00
ば しょ ねん がつ にち げつ
場 所：かながわ県民センター9階フリースペース
ない よう かい
内 容：・ステージプログラムの基本コンセプト
じっしないう
・実施内容について
しゅつえんしゃこうほ ていあん
・出演者候補や提案など
よきさん
・予算について
- だい かい にち じ ねん がつむい か か
第3回 日 時：2010年7月6日（火） 19：00～21：00
ば しょ ねん がつむい か か
場 所：かながわ県民センター9階フリースペース
ない よう しゅつえんしゃちやうせいしんちよくじやうきやう
内 容：・出演者調整進捗状況について
かく
・各ステージプログラムについて
・ファッションショーについて
- だい かい にち じ ねん がついつ か もく
第4回 日 時：2010年8月5日（木） 19：00～21：00
ば しょ ねん がつむい か か
場 所：かながわ県民センター9階フリースペース
ない よう きかく すず かた
内 容：・企画の進め方について
しゅつえんしゃ こえ じやうきやう
・出演者の声がけ状況
ひよう さくせい
・タイムスケジュール表の作成
こうせい なまえ
・プログラムの構成、名前について
- だい かい にち じ ねん がつ にち げつ
第5回 日 時：2010年8月30日（月） 19：00～21：00
ば しょ ねん がつむい か か
場 所：かながわ県民センター9階フリースペース
ない よう かん
内 容：・オープニング、フィナーレに関して
しゅつえんしゃれんらくひよう
・出演者連絡表について
こうせい
・プログラム構成について
とうじつ やくわりぶんたんおよ にんずう ちやうせい
・当日の役割分担及びボランティア人数の調整
さいしゅうちやうせい
・最終調整

(2) ワークショップグループ

- だい かい にち じ ねん がつ にち げつ
第1回 日 時：2010年4月19日（月） 19：00～21：00
ば しょ ねん がつむい か か
場 所：ラテン文化センター横浜
ない よう きかくあん かん はな あ
内 容：・企画案に関する話し合い
- だい かい にち じ ねん がつ か げつ
第2回 日 時：2010年5月24日（月） 19：00～21：00
ば しょ ねん がつむい か か
場 所：ラテン文化センター横浜
ない よう きかくあん かん はな あ
内 容：・企画案に関する話し合い
きかくいん ぼしゅう
・企画委員の募集
- だい かい にち じ ねん がつ にち きん
第3回 日 時：2010年6月18日（金） 18：30～20：30
ば しょ ねん がつむい か か
場 所：かながわ県民センター12階
ない よう ぜんかい きやうぎないよう かくにん
内 容：・前回までの協議内容の確認
へ や きかくないよう けんとう
・部屋ごとの企画内容の検討
・メーリングリストについて

だい かい にち じ ねん がつ ふつ か きん
第4回 日 時：2010年7月2日（金） 18：00～20：30
ば しょ けんみん かい
場 所：かながわ県民センター 12階
ない よう へ や きかくないう けんとう
内 容：・部屋ごとの企画内容の検討
・予算のわりふり

だい かい にち じ ねん がつ にち げつ
第5回 日 時：2010年7月26日（月） 19：00～21：00
ば しょ けんみん かい
場 所：かながわ県民センター 12階
ない よう へ や きかくないう かくにん
内 容：・部屋ごとの企画内容の確認
・必要備品などの検討
・スケジュールに関して

だい かい にち じ ねん がつ にち すい
第6回 日 時：2010年8月18日（水） 19：00～21：00
ば しょ よこはまききょうふじょかいかん
場 所：横浜華僑婦女会館
ない よう かく へ や きかくないう かくにん
内 容：・各部屋ごとの企画内容の確認
・チラシなどの広報に関して
・当日の役割分担

こうりゅう てんじ (3) 交流・展示グループ

だい かい にち じ ねん がつ よう か もく
第1回 日 時：2010年4月8日（木） 19：00～21：00
ば しょ じむしつ
場 所：あーすぷらざ・事務室
ない よう じっし
内 容：・グループで実施するプログラムについて
・会場について
・企画の概要について
・その他のアイデア
・その他協議事項

だい かい にち じ ねん がつ むい か もく
第2回 日 時：2010年5月6日（木） 19：00～21：00
ば しょ じむしつ
場 所：あーすぷらざ・事務室、リリス
ない よう かいじょう
内 容：・会場について
・かながわと世界のともだち展の概要について
・「世界の子ども笑顔」(写真展)の概要について
・韓国京畿道と神奈川県友好20周年の展示の概要について
・交流部分(ワークショップ)について

だい かい にち じ ねん がつ にち すい
第3回 日 時：2010年6月30日（水） 19：00～21：00
ば しょ じむしつ
場 所：あーすぷらざ・事務室
ない よう かいじょう はいち てんじほうほう
内 容：・会場の配置、展示方法
・ワークショップの具体案、担当者を決める
・プログラム掲載原稿の作成

だい かい にち じ ねん がつ むい か きん
第4回 日 時：2010年8月6日（金） 19：00～21：00
ば しょ じむしつ
場 所：あーすぷらざ・事務室
ない よう かいじょう はいち てんじばしょ
内 容：・会場の配置と展示場所
・ともだち展、絵の確認(集まる枚数)

- ・笑顔の写真的の借りの枚数、運送について
- ・プログラムに載せる原稿
- ・必要なもの

第5回 日時：2010年8月27日(金) 19:00～21:00
 場所：かながわ県民センター
 内容：・最終確認協議
 ・作業行程の確認
 ・人の配置
 ・ボランティアの数の調整
 ・展示の配置

(4) 屋外グループ “SOTO”

第1回 日時：2010年4月14日(水) 19:00～21:00
 場所：あーすぷらざ1階・事務室
 内容：・今年度の企画について意見交換
 ・前年度屋外部会の振り返り
 ・グループ名決定

第2回 日時：2010年5月19日(水) 19:00～21:00
 場所：あーすぷらざ1階・事務室
 内容：・グループで実施する企画の検討
 ・屋台、バザール出店団体募集について
 ・グループ長の決定、各企画の担当について

第3回 日時：2010年6月7日(月) 18:00～20:00
 場所：在日本大韓国民団神奈川県地方本部
 内容：・各企画についての検討
 ・演出効果についての検討

第4回 日時：2010年7月28日(水) 18:30～20:30
 場所：かながわ県民センター9階
 内容：・各企画の進捗状況の確認
 ・予算の確認
 ・役割分担、調整必要項目について確認

第5回 日時：2010年8月18日(水) 19:00～21:00
 場所：横浜華僑婦女会館
 内容：・各企画の進捗状況の確認
 ・予算の確認

第6回 日時：2010年8月27日(金) 14:00～16:30
 場所：あーすぷらざ1階・事務室
 内容：・各企画の進捗状況確認
 ・クイズラリー、アイランドステージ会場下見

とうじつ やくわりぶんたんかくにん
・当日の役割分担確認

だい かい にち じ ねん がつ とお か きん
第7回 日 時：2010年9月10日（金） 14：00～16：00
ば しょ かい じ む し つ
場 所：あーすぶらざ1階・事務室
ない よう とうじつ やくわりぶんたんかくにん
内 容：・当日の役割分担最終確認
かくかいじょう びひんじゅんび
・各会場の備品準備

(5) フォーラムグループ

だい かい にち じ ねん がつ にち か
第1回 日 時：2010年4月13日（火） 19：00～21：00
ば しょ けいみん かい
場 所：かながわ県民センター 9階
ない よう かいぎ かいさい
内 容：・ステージ&フォーラムグループ会議として開催
じょうえいさくひん
・シネマコレクション上映作品やテーマについて
がいこくせきけんみん
・外国籍県民フォーラムのテーマについて

だい かい にち じ ねん がつ にち きん
第2回 日 時：2010年5月21日（金） 19：00～21：00
ば しょ けいみん かい
場 所：かながわ県民センター 9階
ない よう かいぎ かいさい
内 容：・ステージ&フォーラムグループ会議として開催
じょうえいさくひん
・シネマコレクション上映作品やテーマについて
がいこくせきけんみん
・外国籍県民フォーラムのテーマについて

だい かい にち じ ねん がつ ここのか すい
第3回 日 時：2010年6月9日（水） 19：00～21：55
ば しょ かい じ む し つ
場 所：あーすぶらざ1階・事務室
ない よう こうほさくひん こども じょうけい ししゃ
内 容：・シネマコレクション候補作品（「子供の情景」）の試写
えいぞうさくひんこうほ
・シネマコレクションの映像作品候補について
がいこくせきけんみん ないよう
・外国籍県民フォーラムの内容について

だい かい にち じ ねん がつ にち か
第4回 日 時：2010年6月22日（火） 19：00～21：15
ば しょ けいみん かい
場 所：かながわ県民センター 9階フリースペース
ない よう えいぞうさくひんこうほ
内 容：・シネマコレクションの映像作品候補について
がいこくせきけんみん こうほ
・外国籍県民フォーラムのパネリスト候補について

だい かい にち じ ねん がつ にち か
第5回 日 時：2010年7月27日（火） 19：00～21：30
ば しょ ざいにっぽんちようせんじんそうれんごうかいかながわけんほんぶ
場 所：在日本朝鮮人総联合会神奈川県本部
ない よう こうほさくひん ししゃ
内 容：・シネマコレクション候補作品（「まとう」）の試写
えいぞうさくひんこうほ
・シネマコレクションの映像作品候補について
がいこくせきけんみん ないよう
・外国籍県民フォーラムの内容について

だい かい にち じ ねん がつ な の か ど
第6回 日 時：2010年8月7日（土） 19：00～21：30
ば しょ けいみん かい
場 所：かながわ県民センター 9階フリースペース
ない よう がいこくせきけんみん けつてい
内 容：・外国籍県民フォーラムのパネリストの決定
とうじつ なが
・シネマコレクションの当日の流れについて
じぜんこうほうようしりょうさくせい
・事前広報用資料作成について
とうじつ やくわりぶんたん
・当日の役割分担について

だい かい にち じ ねん がつ か か
第 7 回 日 時 : 2010 年 8 月 24 日 (火) 19 : 30 ~ 22 : 15
ば しよ
場 所 : あーすぷらざ 1 階・事務室
ない よう
内 容 : ・ 外国籍県民フォーラム当日の配布資料について
・ 広報について
・ 当日の役割分担について

だい かい にち じ ねん がつ にち すい
第 8 回 日 時 : 2010 年 9 月 22 日 (水) 19 : 00 ~ 20 : 30
ば しよ
場 所 : かながわ県民センター 9 階 ボランティアサロン
ない よう
内 容 : ・ あーすフェスタの振返り (良かった点、課題等)
・ 来年度企画への提案

7. 収支報告

しゅうしほうこく

1 収入の部

しゅうにゅうぶ

たんい えん
(単位：円)

こうもく 項目	よさんがく 予算額 (a)	けっさんがく 決算額 (b)	ぞうげんがく 増減額 (b - a)	てきよう 摘要
しゅさいしゃふたんきん 主催者負担金	1,300,000	1,300,000	0	
あーすネット	200,000	200,000	0	
かながわけん 神奈川県	600,000	600,000	0	
J I C A	500,000	500,000	0	
きょうさんきん 協賛金	1,860,000	1,865,000	5,000	
じょせいきん 助成金	0	0	0	
しゅつてんきょうりよくきん 出店協力金	700,000	693,155	▲ 6,845	やたい 屋台、バザール
くりこしきん 繰越金	350,000	351,458	1,458	
ざっしゅうにゅう 雑収入	23,000	54,770	31,770	ワークシヨップさんかひ 参加費・ ぎんこうりしどう 銀行利息等
ごうけい 合計	4,233,000	4,264,383	31,383	

2 支出の部

ししゅつぶ

たんい えん
(単位：円)

こうもく 項目	よさんがく 予算額 (a)	けっさんがく 決算額 (b)	ぞうげんがく 増減額 (b - a)	てきよう 摘要
かいじょうせつえいひ 会場設営費	1,080,000	954,198	▲ 125,802	かいじょうそうしよくひんしゃくようりよう テント・会場装飾品借用料、 うてんほけんどう 雨天保険等
プログラム運営費 うんえいひ	2,178,000	2,088,794	▲ 89,206	しゅつえんしゃしゃきんしょうもうひんどうこうにゅう 出演者謝金、消耗品等購入、 ほうごくしょうとう チラシ・ポスター・報告書等
ぜんたいうんえいひ 全体運営費	825,000	643,905	▲ 181,095	ほけんりよう 保険料、アルバイト賃金、 ちんぎん ボランティア昼食代等
じむきょううんえいひ 事務局運営費	150,000	138,072	▲ 11,928	れんらくつうしんひ 連絡通信費、その他事務経費
くりこしきん 繰越金	0	439,414	439,414	
ごうけい 合計	4,233,000	4,264,383		

広報の記録

1 ポスター【体裁A 2 (カラー) 作成枚数 2,000 枚】

○配布先：構成団体関係機関、県内N G O、エスニックレストラン、市町村、県内図書館、あーすぷらざ
近隣公共施設、観光協会、民族学校、大学、県内高等学校、中学校、小学校、県内サークルKサンクス等

2 チラシ【体裁A 4 (カラー) 作成枚数 55,000 枚】

○配布先：構成団体関係機関、栄区町内会、県内N G O、エスニックレストラン、大使館、市町村、マスコミ各社 (エスニックメディアを含む)、県内図書館、あーすぷらざ近隣公共施設、観光協会、民族学校、大学、県内高等学校、中学校、小学校等

3 パンフレット【体裁A 4 (表カラー、中モノクロ) 作成部数 10,000 部】

○配布先：構成団体関係機関、プラザ館内、県内図書館、協賛依頼先、フェスタ入場者、本郷台駅周辺等

4 インターネット

ホームページ：http://www.k-i-a.or.jp/earthfesta/

(出展募集、ボランティア募集、各プログラム情報、タイムスケジュール (多言語含む)、スタッフブログ等)

掲示板：国際協力N P Oセンター JANIC、市民国際プラザ等

メールマガジン：かながわ地球市民メールマガジン『KIF NEWS』等

5 広報媒体への掲載

(1) 実行委員会構成団体等

神奈川新聞『県民の窓』(9/9)、神奈川県『県のたより』(8月号)、『こんにちは神奈川(5言語)』(夏・秋号)
かながわ国際交流財団ニューズレター『K I F NEWS』(9月号)
生涯学習情報誌『PLANET かながわ』(夏号)

(2) 新聞

朝日新聞 (8/28、9/8、9/12)、読売新聞 (9/3)、日経新聞 (9/9)、神奈川新聞 (9/12)

(3) 雑誌・情報誌

『F C A Jジャーナル』、『ベリーマガジン9月号』、『あさねっと横浜』、『J C N + 9月号』、『タウンニュース栄区版』、『ぱど』、『横浜ウォーカー No.18』

(4) テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ

テレビ神奈川：『カナフルTV』(9/5)
FMやまと (大和市コミュニティラジオ)：『INTERNATIONAL CLUB』(8/29)
FMヨコハマ：『E-ne! ~ good for you ~』(9/7)
FM Salus (青葉区コミュニティラジオ)：『TRIPTRIP』(9/11)
J C Nよこはま：『デイリー横浜』(9/15)

6 その他広報活動

(1) 横断幕

J R 「本郷台」駅

(2) プロモーションビデオ、スライドの放送

川崎駅構内、本厚木駅前、あーすぷらざ館内大型ビジョン



あーすフェスタ 2010

ステージ プログラム

at. あーすプラザホール
栄区民文化センター リリスホール

この熱いステージを
見逃すなっ!

JR 本郷台駅
下車徒歩 3 分

民族音楽 12日リリス “響き渡れラグラグ”

12:00 open / 12:20 start

楽器の演奏や歌をメインとした
美しい民族音楽の響きを楽しむ
ステージ。

栄区三曲協会(箏・尺八)、沈琳(二胡)、ソニーサ
(アルパ)、サウン・ジョシ&アブドゥール・ラーマン(シター
& タブラー)、アリソン・オパオン(フィリピン労働歌)

学校ステージ 11日リリス “出会いのエスコーラ”

13:30 open / 14:00 start

民族衣装のファッションショーから
始まり、外国人学校の生徒たち
による音楽・舞踊のステージ。

横浜国際高校(ファッションショー)
神奈川朝鮮中高級学校(吹奏楽、朝鮮舞踊)
横浜山手中華学校(中国舞踊)

民族舞踊 12日プラザ “情熱のサンスクリティ”

14:00 open / 14:20 start

大迫力のリズム、祈りに溢れた
神に捧げるダンス…
情熱をかき立てる大興奮の
民族舞踊のステージ。

中華学校校友会 国術団(中国獅子舞)、横浜タイダン
スクラブ(タイダンス)、ンジャセ・ニャン(ジャンベ)、
タバ・エンダ(ネパール舞踊)、クルバ・ダ・パイシャオ
ン(アシェ)、パスンダリ(バリ舞踊)、NPO 民団国際協
力センター(サムルリ)

主催: あーすフェスタ 2010 実行委員会
制作: ステージグループ “スニブダヤ”

※やむをえず出演者が変更になる場合がございます。
あらかじめご了承ください。



Earth Festa Kanagawa
SENI BUDAYA
Stage Performance

あーすフェスタ 2010 ステージプログラム

●11日 14:00～ リリスホール
学校ステージ「出会いのエスコラー」

●12日 12:20～ リリスホール
民族音楽「響き渡れラグラグ」

●12日 14:20～ プラザホール
民族舞踊「情熱のサンスクリティ」

司会 佐々木奈緒子 (11日リリス・12日プラザ)

天野もえぎ (12日リリス)

主催 あーすフェスタ実行委員会

企画 あーすフェスタ企画委員会

制作 ステージグループ ” スニブダヤ”

11日 リリスホール

13:30	開場
14:00	横浜国際高校 民族衣装のファッションショー
14:30	神奈川朝鮮中高級学校 民族音楽の合奏・重奏
15:00	横浜山手中華学校 中国舞踊

11日 学校出演者

横浜国際高校 民族衣装ファッションショー

横浜国際高校は平成20年4月に開校した国際情報科の単位制専門高校です。社会のグローバル化に対応し、国際化・ICT化の進む日本社会、国際社会でリーダーとして活躍する人材を育成することを目的としています。

神奈川朝鮮中高級学校 民族音楽

祖国と在日同胞社会の未来を担うべき在日の子供たちに母国語と民族の歴史、文化、伝統を教えるため創立されました。現在中高220名の生徒が通っており、創立から今日まで4000名以上の卒業生を輩出しました。ウリハチヨ(本校)は、民族の繁栄と在日同胞社会の発展に貢献するという自覚、国際社会に通用する知識と教養、自己表現と自己実現の為に努力する健全な心と体を育む事が必要であると考え、これら能力を一人一人の生徒がバランス良く身につける事を目標に、学教育(朝鮮語、日本語、英語)、情報教育、進路指導に力を注ぎ、特色ある教育を行っています。地域に根付いた学校づくりは合言葉に、積極的に地域住民と交流し、学校行事に招待したいと思っています。皆さんの参加をお待ちしています。

横浜山手中華学校 中国舞踊

学校の教育方針は中国語の教育および中華文化の普及を目的とする。徳育・習育・美育・体育等多方面の教育を通して、華僑華人の子弟を対して、科学・文化知識とゆたかな情操を身につけた「三好五愛」の学生を養成する。併せて中日両国の友好に貢献できる人を育成する。三好一徳が健康・勉強に励む・仕事をよくする 五愛一祖国を愛する・学習を愛する・公共物を大事にする・清潔に気をつける

12日 リリスホール

12:00	開場
12:30	柴区三曲協会 箏・尺八 沈琳 二胡
13:00	ソニーサ アルパ サワン・ジョン&アブドゥール・ラーマン シタール&タブラー
13:30	アリン・オハボン オタタチ・ミュージック

12日 プラザホール

14:00	開場
14:30	クルバ・ダ・バイジャオン アジエ 横浜タイダンスクラブ タイダンス
15:00	ンジャセ・ニヤン シャンバ エソダ・バスネット ネパール舞踊 横浜中華学校校友会 国術団 中国獅子舞
15:30	ハズンダリ ハリ舞踊
16:00	NPO 民間国際協力センター サムルルリ
16:30	フィナーレ

進行によりこの時間前後に幕を閉じさせていただきます。ご了承ください。

12日 民族音楽・出演者

栄区三曲協会 箏・尺八



栄区三曲協会は、日本の伝統文化である三曲(箏・尺八・三絃)で構成され、栄区の「春の文化祭」「秋の芸術祭」「定期演奏会」栄区内の小中学校で「箏体験教室」区役所の「ミニコンサート」等、積極的に活動しています。

沈琳 二胡



幼いころより二胡を習い始め、異例のスピードで演奏技術を習得。国賓等が来た際には必ず演奏した。5年前に来日し、現在は横浜を中心に演奏活動と教室を実施。

ソニーサ アルバ



松木亜里沙：2007年第6回全日本アルパコンクール優勝、パラグアイ大使賞、千葉市長賞受賞。2009年1st アルバム「Angelita」リリース。今日は特別にアルパ教室「ソニーサ」の仲間と一緒に演奏します。

サワン・ジョシ&アブドゥール・ラーマン シタール&タブラー



インド古典音楽をベースにしてシタールとタブラーという楽器を使い、ネパール、インド、バングラデシュの音楽と独自の音楽演奏活動をしています。2003年にシタール中心にした「Swatantra」アルバム発表。

アリソン・オパオン

フィリピンのオルタナティブ・ミュージック



フィリピン・ミンダナオ島出身。日本で働きながら、フィリピンでオルタナティブ・ミュージックといわれる環境や人権、平和などを訴えるメッセージソングを歌っている。在日フィリピン人の自助組織・KAFIN(カフィン) 横浜支部代表。

12日 民族舞踊・出演者

クルベ・ダ・パイシャオン



アシエ

ブラジルの陽気な曲に合わせて、セクシーにかっこよく楽しく踊れるAxeの魅力を日本中に広めるべく、元気に熱く活動している。

横浜タイダンスクラブ



タイダンス

タイダンスを通して、互いの文化交流をはかり、また、地域の方々のハタイの文化を広める手助けをしている。

ンジャセ・ニヤン



ジャンベ

セネガル共和国、ダカール出身。ジエバのほか西アフリカの様々な楽器を演奏するプレイヤー。ダンスカンパニー「タムタム・タフルック」を経てセネガル第2国立舞踊団「シメク」のソリストを務め、世界で数多くの公演、ワークショップの経験を持つ。2001年8月より拠点を日本に移している。

エソダ・バスネット



ネパール舞踊

ネパール人留学生。横浜商科大学で観光を勉強しているほか、様々な国際交流のイベントでネパールとネパールの伝統舞踊を紹介しています。日本での身につけた知識と語学を活かして日本とネパールの架け橋になりたいです。

横浜中華学校校友会 国術団

中国獅子舞



「中国伝統文化の継承」を趣旨として、横浜山手中華学校の卒業生が結成。毎年、発祥地である祖国中国や世界各地の華僑・華人団体との交流や研究をいっしょに、伝統を守りつつも進化・刷新している。

12日 民族舞踊・出演者②

バスンダリ



バリ舞踊

「バスンダリ」とはサンズクリット語で「大地の女神」。神奈川県湘南地区を中心に活動しているバリ舞踊グループです。2002年設立。学校や公民館等で、バリ舞踊公演のボランティア活動、バリ舞踊体験のワークショップ、生演奏(ガムラン)と舞踊のコンサート等を行っています。

NP0 民団国際協力センター

サムルノリ

サムルノリのサムルは「四物」、ノリは「遊び」という意味で、4種類の韓国伝統打楽器で演奏することの意味があります。韓国に古くから農村に伝わる伝統芸能に必ず使用される4種類の打楽器を用い、座って演奏する舞台演奏形態です。



Earth Festa Kanagawa
SENBUDAYA
Stage Performance

ステージグループ “スニブダヤ” とは…!?

インドネシア語で、スニは「芸能」、ブダヤは「文化」。あーすフェスタ企画委員のながで、ステージ企画に興味・関心のあるメンバーが集まりました。

<メンバー一覧(順不同・敬称略)>

高橋顕雄、長谷川亜美、林載守、金勇徳、エソダ・バスネット、温熾権、角田操子、富士原直也、荻村哲郎

あーすフェスタ2010 感動のフィナーレ
9月12日(日) 16時30分～
プラザホールにて
なにが起きるか!? 乞うご期待!!

わくわく ワークショップのご案内

★ワークショップは、あーすぷらざ1Fで開催します★

世界の楽器と踊り 創作スタジオ

ラテンアメリカ音楽体験

南米の楽器、チャランゴによる演奏でラテンアメリカのリズムや歌を体験しましょう

□日時：11日(土)
11:00～12:20
□対象：子どもから大人まで

癒しのバリ舞踊

インドネシア・バリ島の伝統舞踊体験。リラックス効果のあるガムランの調べに合わせて、指先や肩甲骨を細かく動かし踊りましょう。

□日時：11日(土) □対象：子どもから大人まで
15:00～16:00 □動きやすい服装で

ラティーノダンスをディスコで

ラテンの踊り、ラティーノダンスをディスコのリズムに合わせて踊ってみましょう!

□日時：11日(土) □対象：子どもから大人まで
13:00～14:30 □動きやすい服装で
12日(日)
14:00～15:00

メキシカンダンスを踊ろう

ラテンのリズムに乗って、楽しく踊りましょう。

□日時：12日(日) □対象：子どもから大人まで
13:00～14:00

世界のお茶

大会議室

世界のお茶を味わおう。スリランカ、アルゼンチン、中国、日本のお茶を紹介します。

□日時：11日(土) □対象：子どもから大人まで
13:00～15:30 □定員：各国50名
□参加費：1カ国200円 当日受付先着順

世界のものづくり

大会議室

アジアノットのストラップづくり

□日時：12日(日) □対象：子どもから大人まで
11:00～15:30
□参加費：100円 □定員：先着80名(随時受付)

タイのフルーツカービング教室

□日時：12日(日) □定員：各回 先着10名
□参加費：100円(おみやげ付)
10:30～ デモンストレーション
12:00～ 13:00
14:00～ 15:00
□対象：大人(刃物を使用します)
各回 30分

韓国のパッチワーク ポジャギのキーホルダーづくり

□日時：12日(日) □対象：大人
13:00～16:00 □定員：先着10名
□参加費：1000円

世界の絵本の読み聞かせ&色で遊ぼう!

中会議室

世界の絵本の読み聞かせを楽しんだり、色で遊びながら本に親しみプログラムです。親子での参加をお待ちしています!

□日時：11日(土) 12日(日) □対象：親子
11:00～11:45 □参加費：100円
14:00～14:45 □定員：各回10組

コミュニケーションと読書

読書とコミュニケーションの大切さについて、絵本やスペイン語の童謡などを紹介しながらお話していただきます。

□日時：12日(日)
13:00～13:30

あそびば ワークショップルーム

世界のさまざまな遊びの体験ワークショップです。中国・韓国・フィリピン・タイ・ネパール・ブラジル・ペルー・日本の遊びを紹介しています。様々な国をルーツにもつ若者たちが、みなさんを待っています。

□日時：11日(土) 12日(日) □動きやすい服装で
11:00～16:00

□対象：子どもから大人まで

しゃべりば

多目的室

今年のテーマは「家族」。公開生ラジオ形式や参加者とのしゃべりば形式で、みんなで語り合しましょう!

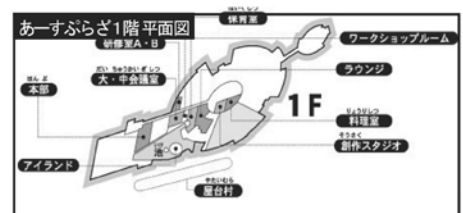
□日時：11日(土) 12日(日) □対象：子どもから大人まで
12:30～13:30 □どなたでも気軽に参加してください。
14:00～15:00

■申込方法(事前申込を受け付けるプログラムのみ)

□申込方法：電話またはFAXで①から④をお知らせください。①参加希望のプログラム名、②氏名、③年齢、④電話番号(FAXの方はFAX番号も)
※FAXの方には、受け取り確認のFAXを返信します。3日以内に連絡がないときは確認の電話をしてください。
□受付時間 9:00～17:00(月曜日)

■問合せ・申込先 TEL: 045(896)2899 FAX: 045(896)2299

あーすフェスタかながわ2009実行委員会 ワークショップ担当
(かながわ国際交流財団内 担当者：みつだ)



JICA 横浜企画

「どうなってるの？」

世界と日本・私たちの生活からわかる世界とのつながり

私たちの日常生活が開発途上国と呼ばれる国々にどれだけ助けられているかを学べます！
食料自給率や貿易についての展示だけでなく、小学校5年生～中学生対象のペーパークラフトのワークショップなど様々な企画と世界の民族衣装を着たスタッフがお待ちしています。

●日時：11日（土）10:30～16:30、12日（日）10:30～16:00

●場所：2階 リリス会議室



口をきいて・みて・たいけん
交流・展示コーナー

写真展「世界の子どもの笑顔」

子どもたちが夢と希望を持って生きる、
そんな世界を願って、子どもたちの笑顔
の写真を集めました。

●日時：11日（土）10:30～16:30

12日（日）10:30～16:00

●場所：2階 リリスギャラリー

かながわと世界のともだち展

～夢をつなぐ
ともだちの輪～

かながわに住む、外国につながる子ども
たちと地元の子どもたちが「夢」をテ
ーマに描いた作品を展示します。
「お話広場（はらぺこあおむし）」や
「工作コーナー」で一緒に遊びましょう！

●日時：両日とも 10:30～16:00

●場所：2階 リリスギャラリー

「かながわのともだち都市 ～8つのともだちを紹介します～」

神奈川県では、世界の8つの地域（※）と交流しています。パネルや地域の産品、
観光パンフレットなどで8つの地域を紹介します。

※交流のある8つの地域

◆メリーランド州（アメリカ） ◆オデッサ州（ウクライナ） ◆ペナン州（マレーシア）

◆遼寧省（中国） ◆ゴールドコースト市（オーストラリア） ◆京畿道（韓国）

◆バーデンピュルテンベルク州（ドイツ） ◆ヴェストラジョータランド県（スウェーデン）

●日時：両日とも 10:30～16:00

●場所：2階 リリスギャラリー



あーすフェスタかながわ2010 屋外マップ

①～③② ワールドバザール
各国の民芸品の販売、民族団体、
国際交流・協力団体の活動紹介展示など。

1～22 世界屋台村
世界各地のエスニック料理をどうぞ！
主にかながわで活動する民族団体、
国際交流・協力団体、レストランが出店。
(詳しい出店内容は、別紙をごらんください)



ワールドバザール
11・12日 10:30～16:00
※雨天時2階展示エントランス・廊下

2階アプローチデッキ

- (特活) 草の根援助運動 15
- Anan's キッチン 14
- かながわベトナム親善協会 13
- (特活) JUNKO Association 12
- (特活) ピラーンの医療と自立を支える会 11
- (特活) 地球の木 10
- NPO 日文化交流センター 9
- 日本インドネシアNGOネットワーク 8
- カンボジア母国語を保障する会 7
- インドシナクラブ 6
- サンワイス 5
- LOS ANDES (エクアドル) 4
- サガルマータ 3
- 第3世界ショップ 2
- アンデス・アルテ 1

大道芸
11日 11:10～15:00
12日 11:00～15:00

ふあふあ ※雨天中止
11日 11:10～15:00
12日 11:00～15:00

正面入り口周辺
飲食屋台
16・17日 11:00～16:00

★リサイクル容器は
重ねずに回収所へお持ちください。
※おタバコは**喫煙コーナー**
をご利用ください。
ご協力をお願いいたします。

<p>クウェート レバノン</p>	<p>①アラビア料理レストラン アル・アイン</p>	<p>(イチャオン島) チキンシヤワルマ (アラビアバーガー)</p> <p>(ひとこと) 元クワエート大使館シェフが作る本格アラビア料理。スパイスよりハーブを多く使用し、辛いのでご注意ください。お召し上がりいただけます。</p>		<p>②株式会社メルヘン</p>	<p>(イチャオン島) アメリカンタイプクレープ フライドチキン フライドポテト 生ビール</p> <p>(ひとこと) 横浜市内に店舗のレストランを展開するアメリカンスタイルのクレープ、フライドチキン、フライドポテト、生ビールを揃ったファミリーレストランです。お客様から支持を頂いております。</p>		<p>③かまがやバトナム親善協会</p>	<p>(イチャオン島) チャジョー (バトナム揚げ春巻き)</p> <p>(ひとこと) 本格バトナム料理を食へに来て下さい。私運とお友達になりましょう。</p>		<p>④神奈川県立高等学校教育会 (父母の会)</p>	<p>(イチャオン島) 焼き肉ナール井 スシスー 白煮キムチ</p> <p>(ひとこと) ナール井、スシ、白煮キムチなど、人気メニューを揃えております。是非一度お試しください。</p>		<p>⑤クメールボランティア協会</p>	<p>(イチャオン島) 焼きトウモロコシ オムライス 焼きとろ (牛・鶏)</p> <p>(ひとこと) 皆様のお越しをお待ちしております。</p>		<p>⑥インドレストランby & Mrs</p>	<p>(イチャオン島) 骨なしタンンドリーチキン インディアン野菜ダango ホットジンジャーモモンチャイ ジュース、水</p> <p>(ひとこと) パン、カレー、チャイ、デザートなど、インドの伝統的な料理を揃えています。スパイスが効いた料理が特徴です。是非一度お試しください。</p>		<p>⑦NIJOUN~ニユン</p>	<p>(イチャオン島) ヤサ (マスタートソース) ピサツブ (ピーナツバターソース)</p> <p>(ひとこと) ヤサ、ピサツブ、ナガサキ料理。西アフリカに近しいイメージのセネガル料理は、日本人の口に合います。ハイビスカスを使ったジュースも美味!</p>		<p>⑧(有)イーサン食堂</p>	<p>(イチャオン島) タイのやきそば タイの牛肉ラーメン タイカカ入りフルードドリンク</p> <p>(ひとこと) 1995年創業、神奈川県前林間でタイ本と同じ味で販売。タイ王國商務省公認タイセレクトレストランにも認定されています。</p>		<p>⑨(特活) A.P.F.S.</p>	<p>(イチャオン島) 移カカアール&ナン 野菜カレーパン ジンジャーパ タンンドリーチキン</p> <p>(ひとこと) 日本に住む外国人の質問解決を行うNPO団体です。相談に訪れた方が後には、一緒にランチや飲み会を開催したり、イベントやワークショップも開催しています。是非一度ご参加ください。</p>		<p>⑩在日本大韓民国青年会 神奈川県地方本部</p>	<p>(イチャオン島) ピビンバのトッピング わかめスープ チャミスル マッコリ hit</p> <p>(ひとこと) 韓国料理の代表として、ピビンバ、マッコリ、チャミスル、わかめスープなどを揃えています。是非一度お試しください。</p>		<p>⑪エスクエラ・デ・エスパニョール</p>	<p>(イチャオン島) チキンソテー ソーセージ</p> <p>(ひとこと) エスクエラ・デ・エスパニョールのママたちが心をこめて作ったおいしいお料理をたっぷり楽しんで下さい。</p>		<p>⑫ナイル</p>	<p>(イチャオン島) カバフサンド シンカバ メガツダ</p> <p>(ひとこと) 今、エジプトの家庭料理を作り出す。クスクス、アバササンドイッチなどエジプトの味を食べて下さい。</p>		<p>⑬(特活) 地球の木</p>	<p>(イチャオン島) チヂミ</p> <p>(ひとこと) 地球の木が、地球市民交流をしてお隣の、韓国の食べ物チヂミです。タレは本場韓国の方に教えてもらいました。</p>		<p>⑭リトルヨーロッパ</p>	<p>(イチャオン島) クレープ 飲み物</p> <p>(ひとこと) 本場フランスのクレープ、飲み物を揃えています。是非一度お試しください。</p>		<p>⑮クイントゥル・ラテンアメリカ・カルチャープラン</p>	<p>(イチャオン島) アンデスパーベキュー チヨリン</p> <p>(ひとこと) ラテンアメリカの文化を楽しんで下さい。明るい音楽、楽しい盛り合わせ、そしておいしいお料理と共に。</p>		<p>⑯(特活) 地球市民がめがやPK</p>	<p>(イチャオン島) ミヤマンー紅茶 ミヤマンーコーヒ</p> <p>(ひとこと) 本場ミヤマンー紅茶、ミヤマンーコーヒ。1993年よりタイ、ミヤマンー、インドにおいて教育支援、女性自立支援を行っています。タイ、ミヤマンー、インドの文化を学ぶ機会です。是非一度お試しください。</p>		<p>⑰本場ペルシヤ料理クーチエ</p>	<p>(イチャオン島) カバゴハバ (羊) カバフクビチ (牛) コロコビール ノンアルコールビール</p> <p>(ひとこと) サフランなどで仕込んだ、本場の味。小籠包、揚げパン、カバフクビチ、コロコビール、ノンアルコールビールなど、本場の味を揃えています。是非一度お試しください。</p>		<p>⑱青年海外協力隊神奈川県会</p>	<p>(イチャオン島) トンガ コロニア</p> <p>(ひとこと) トンガ、コロニアの文化を楽しんで下さい。明るい音楽、楽しい盛り合わせ、そしておいしいお料理と共に。</p>		<p>⑲イラン</p>	<p>(イチャオン島) 焼き鳥 串焼き ビール ソフトドリンク</p> <p>(ひとこと) 本場イランの焼き鳥、串焼き、ビール、ソフトドリンクを揃えています。是非一度お試しください。</p>		<p>⑳イランペルシヤ料理イスガへボルホリ</p>	<p>(イチャオン島) ハーフソーゼージ</p> <p>(ひとこと) ハーフソーゼージの文化を楽しんで下さい。明るい音楽、楽しい盛り合わせ、そしておいしいお料理と共に。</p>		<p>㉑大船チャンプル</p>	<p>(イチャオン島) スハムおにぎり 酒蔵 オリオンビール</p> <p>(ひとこと) 本場スハムおにぎり、酒蔵、オリオンビールを揃えています。是非一度お試しください。</p>		<p>㉒ジュンパ・横浜</p>	<p>(イチャオン島) ミー・ゴレン サチ・アヤム フルーツ・ティー</p> <p>(ひとこと) 本場ミャンマーのミー・ゴレン、サチ・アヤム、フルーツ・ティーを揃えています。是非一度お試しください。</p>		<p>㉓横浜コンスタンスソニア友好委員会</p>	<p>(イチャオン島) ワイン (ルーミアニア直輸入ワイン)</p> <p>(ひとこと) ルーミアニアのワインを揃えています。是非一度お試しください。</p>		<p>㉔NIRVANAニルヴァーナ ~インド・ネパール料理~</p>	<p>(イチャオン島) チキンカレー ターメリックライス タンンドリーチキン</p> <p>(ひとこと) 本場インド、ネパールのチキンカレー、ターメリックライス、タンンドリーチキンを揃えています。是非一度お試しください。</p>	
-----------------------	----------------------------	---	---	------------------	--	---	----------------------	--	---	-----------------------------	--	---	----------------------	---	---	------------------------------	---	---	--------------------	--	---	-------------------	---	---	-----------------------	---	---	-----------------------------	--	---	-------------------------	--	---	-------------	--	---	-------------------	---	---	------------------	--	---	---------------------------------	--	---	-------------------------	---	---	----------------------	--	---	----------------------	--	---	-------------	---	---	---------------------------	--	---	-----------------	---	---	-----------------	---	---	--------------------------	---	---	--	--	---

子どもから大人までみんなでみよう

あーすフェスタ発

シネマコレクション

5階映像ホール

9月11日(土)



■シネマコレクション Part 0 (午前&午後、12日の午前)

☆Re:C作品 日系ブラジル人の私を生きる・レモン・『在日』でいることの意味・ヒョジョンへ

☆出会い～在日コリアン三世と日本の若者たち

☆名前…それは燃えるいのち (アニメーション) 計7作品

☆ペンギンの国のクジャク (アニメーション) ※映像は続けて流れます。

think 「違い」は個性、多様性のなかに発見がある



■シネマコレクション Part 1 (午後15:55～16:30)

☆短編映画 『まとう』 (35分)
監督・脚本：朴英二

智絵。お願いがあるんだけど
今度子マチョゴリ貸してくれない?
(映画の中から)

think 日本で暮らす同年代の学生
子マチョゴリ事件から何が見える



■シネマコレクション Part 2 (午後12:20～14:00)

ドキュメンタリー

☆となりに生きる外国人
多文化共生って何? (30分)

☆わいわい ごちゃごちゃ
多文化・多民族共生の町 (34分)

think speak up 考えを形に!
見るだけじゃ終わらない!

映像鑑賞後は、みなさんでいろんな
意見を出し合いましょう!

9月12日(日)



■シネマコレクション Part 3 (午後14:15～16:00)

☆ドキュメンタリー映画

『ブラインドサイト ～小さな登山者たち～』
(2006年イギリス制作)

世界中で熱い支持を受け、各国の映画祭で数々の観客賞を受賞!
チャレンジすることの大切さを教えてくれる感動のドキュメンタリー!
盲目のドイツ人教育者サブリエ・テンパーゲンが設立した盲学校の生徒達が世界的な盲人登山家である
エリック・ヴァイエンマイヤーらと登山に望む。

think 国や民族だけではない・・・
共生社会をつくることの意味は?

DVD 発売中
税込 3,990 円 (税抜 3,800 円)
発売元: ジェネオン・ユニバーサル・エンターテイメント

- ◆2007年ベルリン国際映画祭パノラマ観客賞受賞
- ◆2007年バームスプリングス映画祭ドキュメンタリー部門観客賞受賞
- ◆2006年AFI映画祭ドキュメンタリー部門観客賞受賞
- ◆2006年英国インディペンデント映画賞最優秀ドキュメンタリーノミネート

外国につながりを持つ子ども達の教育問題を考える

～母語を大切にした日本語・教科学習支援を通じて～



日時：2010年9月11日(土) 13:30～15:40

(開場 13:15)

場所：あーすぷらざ(本郷台駅より徒歩3分) 2F プラザホール

外国につながりを持つ子ども達は、親と共に来日したり、呼び寄せられたり、日本で生まれ育つなど、多様な背景があります。当然、その教育も教育機関の選択を含め、問題は数多く、簡単に解決したり理解することはできません。このフォーラムでは、外国につながりを持つ子どもの抱える教育上の問題の大きさを知って貰いたいと思い企画しました。第一部では、日本語を母語としない子どもの高校進学に関する問題を映像でお見せします。それを受けて、第二部では、学校外における子どもやその家庭での母語を大切にする支援の取り組みをパネリストに語っていただきます。日本語や教科の支援と共に、教育相談の役割と有効性についても触れたいと思います。また、パネリストの一人として、支援を受けた外国人当事者の話も予定しています。日本語・教科支援と教育相談のコラボレーションを通じて、身近にいる子ども達の教育問題を解決するきっかけになることを願っています。

司会：張 恵珠、金 載旺

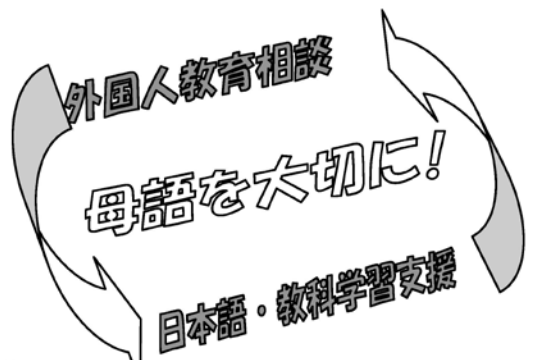
第一部：短編映像－(特非)多文化共生センター 東京 たぶんかフリースクールで学ぶ子ども達

第二部：パネルディスカッション

コーディネーター：Norman Nakamura (中村ノーマン)

パネリスト：西山 日佐子、李 原翔、山野上 麻衣、

支援を受けた当事者・・来日時に中学生だった日本語を母語としない大学生



企画：あーすフェスタかながわ2010企画委員会

問い合わせ先：あーすフェスタかながわ2010実行委員会共同事務局

神奈川県民局 暮らし文化部国際課企画グループ Tel 045-210-3748 財団法人かながわ国際交流財団 Tel 045-896-2896

あーすフェスタかながわ 2010 じっしほうこくしよ 実施報告書

はっこう 発行 ねん 2011 年 がつ 1 月

あーすフェスタかながわ 2010 じっこういんかい 実行委員会

かながわけんよこはましなかくにほんおどおり
〒 231-8588 神奈川県横浜市中区日本大通 1
かながわけんけんみんきやく ぶんかふこくさいか
神奈川県民局くらし文化部国際課 (TEL 045-210-3748)

〒 247-0007 かながわけんよこはましさかえくこすが や けんりつちぎゅうしみん
神奈川県横浜市栄区小菅ヶ谷 1-2-1 県立地球市民かながわプラザ 1 階
ざい (財) こくさいこうりゅうざいだん かながわ国際交流財団 (TEL 045-896-2896)

festa@k-i-a.or.jp

